

皆さま、こんにちは。グループCEOの中島です。
日頃より当社をご支援いただき、誠にありがとうございます。

本日は、2026年上期決算と、
今年度からスタートした中期経営計画の進捗状況についてご説明します。

3ページにお進みください。

アジェンダ

Ⅰ 上期実績 ////////////////////////////////////// 2

Ⅱ 中期経営計画の進捗 ////////////////////////// 21

Ⅲ 資本政策 ////////////////////////////////////// 35

Appendix ////////////////////////////////////// 42

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

Globally connected. Rooted in Japan.
Your most trusted partner.

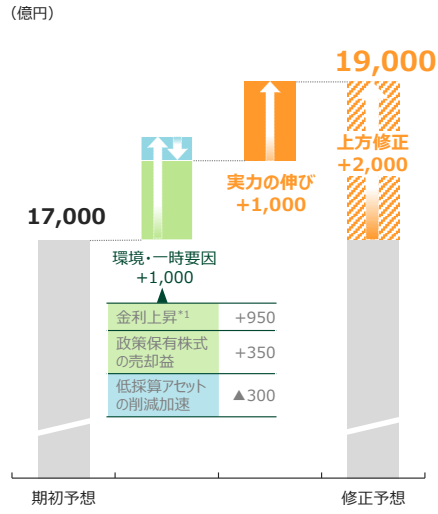
上期実績

上期実績・通期業績予想

国内ビジネスの成長や市場事業部門の好調により、親会社株主純利益は半期で初の1兆円台に到達
通期予想は、期初から+2,000億円の1兆9,000億円に上方修正

（億円）	26年度上期 実績	26年度上期 前年同期比	26年度通期 修正目標	26年度通期 期初目標比	26年度通期 前年比
連結粗利益	27,410	+4,422	–	–	–
営業経費	▲14,128	▲1,840	–	–	–
連結業務純益	14,033	+2,552	26,500	+2,500	+3,191
修正前進捗率	58%				
与信関係費用	▲1,335	▲434	▲3,400	–	△484
経常利益	13,956	+1,175	26,700	+2,800	+3,666
親会社株主純利益	10,032	+697	19,000	+2,000	+3,170
修正前進捗率	59%				+20%
ROTE	13.9%	+0.3%	–	–	–
東証ROE	12.7%	+0.2%	–	–	–

▶ 親会社株主純利益の上方修正内訳



*1 計画前提を見直し（国内政策金利 0.75%⇒1.25%）

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

まず、上期決算についてご説明します。

良好な業務環境の下、国内ビジネスや市場事業部門を中心に本業が好調なことから、
スライド左側、6行目の親会社株主純利益は、
半期で初めて1兆円の大台に到達しました。
当社の収益力が一段と高まっていることを実感しています。

この状況を踏まえ、スライド右側の通り、業績予想を上方修正しました。

期初懸念していた中東情勢によるマイナス影響は大きく顕在化しておらず、
お客さまの活動も活発です。

6月と9月に日銀による2回の追加利上げなど、環境要因により
期初計画比で1,300億円の上振れを見込んでいます。

一方で、将来のROTEの改善に向けて、下期は海外の低採算アセット削減を加速し、
追加で300億円の売却損を織り込みました。

こうした環境・一時要因による1,000億円の上振れに加えて、
本業においても、各施策の着実な実行が成果につながっており、
期初計画比で1,000億円の伸びを見込める状況になっています。

その結果、期初予想から合計で2,000億円引き上げて、
通期目標を１兆9,000億円としました。

21ページにお進みください。

損益の概要

	(億円)	26年度 上期	前年 同期比	26年度 修正目標
1	連結粗利益	27,410	+4,422	
2	営業経費	▲14,128	▲1,840	
	（経費率）	51.5%	△1.9%	
3	持分法投資損益	751	▲30	
4	連結業務純益	14,033	+2,552	26,500
5	与信関係費用	▲1,335	▲434	▲3,400
6	株式等損益	1,616	▲847	
7	その他	▲358	▲97	
8	経常利益	13,956	+1,175	26,700
9	特別損益	▲44	▲18	
10	税コスト	▲3,794	▲420	
11	親会社株主純利益	10,032	+697	19,000
12	ROTE	13.9%	+0.3%	
13	東証基準ROE	12.7%	+0.2%	
14	株主資本ROE	16.7%	+0.4%	

- **連結粗利益** （為替影響[*1]：＋740）
  国内の資金利益・手数料収入が増加
  手数料は、法人ビジネスや資産運用・決済ビジネスが牽引
- **営業経費** （為替影響[*1]：▲390）
  インフレ影響や売上連動費等により増加するも、
  トップラインの伸長により、経費率は改善
- **持分法投資損益** （為替影響[*1]：＋30）
  SMBCACにおける保険金受領の剥落（▲130）や、
  東亜銀行の外部会社化に伴う影響（▲100）で減益となる一方、
  アジア出資先の業績回復に伴う貢献利益増加等により横ばい
- **与信関係費用**
  中東情勢に関連する影響は顕在化せず、
  通期予想に対しては標準進捗を下回るペースで推移
  25年度のSMBCの大口の戻入益が剥落し、前年同期比では増加
- **株式等損益**
  Kotak株式の売却益剥落（▲940）等[*2]により減少

*1 BC海外支店PL（取引日レート）・海外現法PL（期末日レート）等の為替変動影響
*2 政策保有株式の売却益減少（1,330、YoY▲410）、ETF売却益増加（+280）、東亜銀行株式の売却損剥落（+280）

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

（参考）主要グループ会社の業績

▶ SMBC

	（億円）	26年度上期	前年同期比
1	**業務粗利益**	16,147	+2,378
2	うち資金利益	12,413	+2,472
3	うち投資信託解約損益	803	+403
4	国内	8,177	+2,726
5	海外	4,236	▲254
6	うち役務取引等利益	3,001	+278
7	国内	1,182	▲23
8	海外	1,819	+300
9	うち特定取引利益+その他業務利益	711	▲375
10	うち国債等債券損益	▲255	▲358
11	**経費**	▲6,600	▲1,091
12	**業務純益**	9,547	+1,287
13	**与信関係費用**	▲36	▲610
14	**株式等損益**	1,579	▲690
15	**その他臨時損益**	22	▲884
16	**当期純利益**	7,686	▲1,514

▶ SMBC以外の主要グループ会社

（左：26年度上期実績、右：前年同期比）

（億円）	SMBC日興[*1]		SMCC[*2]		SMBC信託	
業務粗利益	3,447	+698	4,672	+401	466	+100
経費	▲2,588	▲323	▲3,393	▲337	▲234	▲10
業務純益	858	+375	1,292	+38	232	+90
当期純利益	643	▲99	344	▲180	162	+49

- 政策保有株式売却益の剥落　：▲400億円（税前）
- 一時的な税コスト減少影響の剥落　：▲100億円（税後）
- 貸倒基準変更影響の剥落を含む与信関係費用の増加

（持分法適用）

	SMDAM 50%		SMFL[*3] 50%	
業務粗利益	297	+77	1,835	▲74
経費	▲192	▲28	▲877	△10
業務純益	104	+49	1,022	▲46
当期純利益	34	+15	539	▲114

- SMBCAにおける保険金受領影響の剥落　：▲130億円（税後）

SMBCの特殊要因

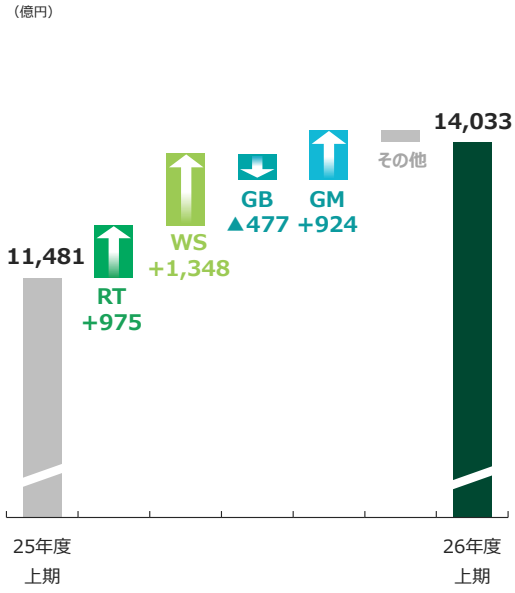
資金利益	一過性の子会社配当の剥落（連結消去）：▲700億円
与信関係費用	大口の与信費用の戻入益の剥落
株式等損益	Kotak株式売却益の剥落：▲940億円
その他臨時損益	VPBank 投資損失引当金の戻り益の剥落（連結消去）：▲900億円

*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsの利益を含む内部管理ベース　*2 SMBCCFの計数を含む
*3 内部管理ベース

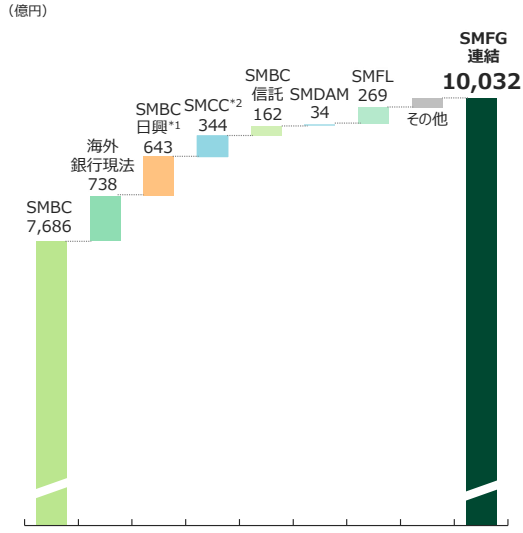
Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

（参考）連結業務純益／親会社株主純利益の内訳

▶ 連結業務純益



▶ 親会社株主純利益（エンティティ別）



*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsの利益を含む内部管理ベース *2 SMBCCFの計数を含む

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

円金利上昇影響

政策金利+0.25%で、初年度+1,100億円、固定金利貸出の入替効果により5年目には+1,500億円
貸出金の残高増加や国債ポートフォリオの再構築、積極的な預金獲得でさらなるアップサイドあり

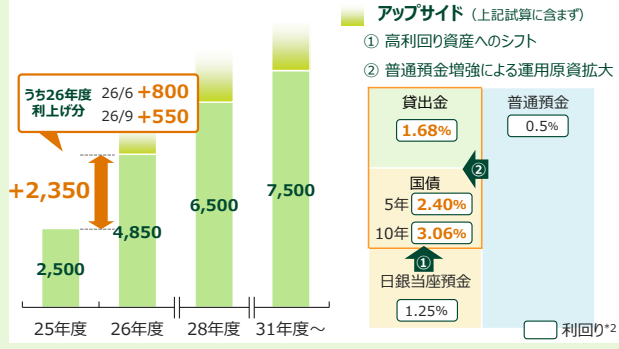
円貨B/S（26/9末） （兆円）

運用		調達	
貸出金	**70**	**預金**	**135**
市場連動	40	普通預金	90
固定金利	20	定期預金	30
プライム貸出等	10	当座預金	15
市場性運用	**60**		
日銀当座預金	50		
短期国債	2		
中長期国債	8		
その他	**20**	**その他**	**15**
円投等		資本性調達 市場性調達等	

政策金利　+0.25%あたり

初年度 **+1,100億円**[*1]　→（毎年度+100億円）→　5年目 **+1,500億円**[*1]

収益影響 （億円）



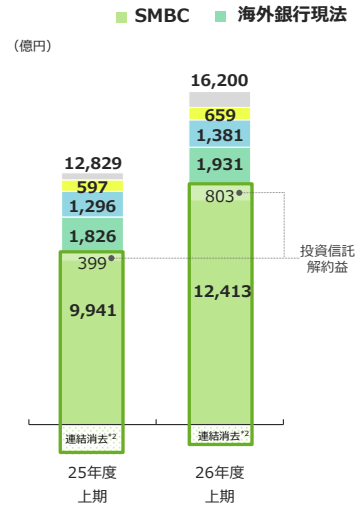
*1 長期・短期金利ともに+25bpsずつ上昇の想定。預金金利は過去実績を使用　*2 26/9末時点

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

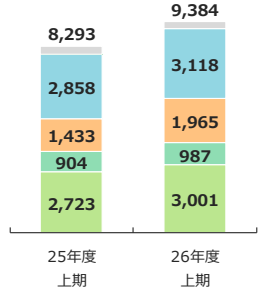
連結粗利益

国内貸出残高の増加に加え、金利上昇の追い風もあり資金利益は増加
役務取引等利益も、活発なコーポレートアクションの捕捉やOliveによる買物取扱高増加等により増益

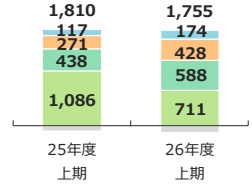
▶ 資金利益



▶ 役務取引等利益



▶ 特定取引＋その他業務利益



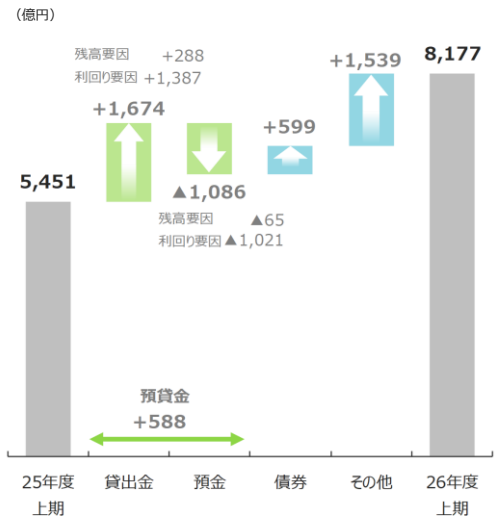
*1 SMBCCFの計数を含む *2 一過性の子会社配当（25年度上期:1,500億円、26年度上期:800億円）を含む

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

（参考）資金利益の増減要因（SMBC）

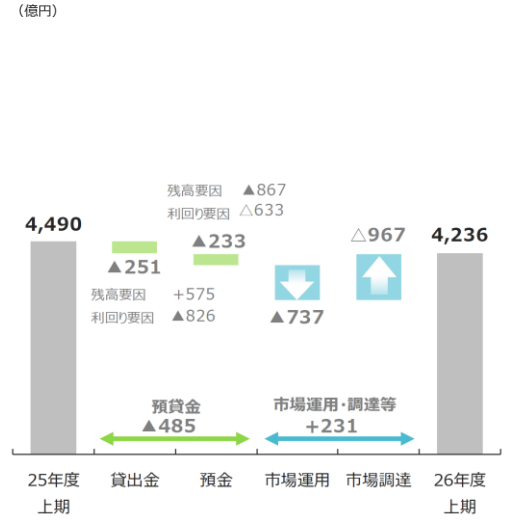
▶ 国内

- 市場金利上昇による預貸金利回り改善と
  貸出金の残高増加により、預貸金収益はプラス



▶ 海外

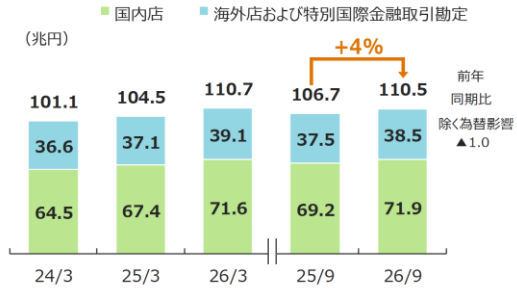
- 貸出残高は減少するも、為替影響により円建換算では増加
  欧米での利下げ影響に加え、外貨預金の獲得推進による残高
  増加により、預貸金収益はマイナス



Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

貸出金*1

▶ 貸出金残高

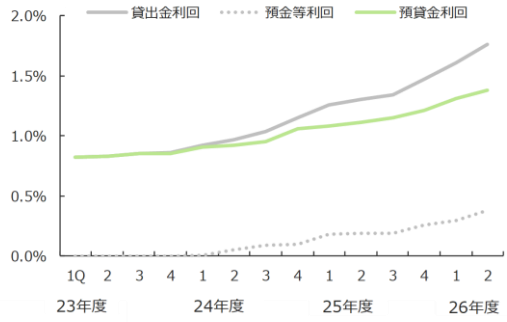


▶ 期中平均貸出残高・スプレッド*2

	平均残高（兆円）		スプレッド（%）	
	26年度上期	前年同期比*4	26年度上期	前年同期比
国内貸出	70.2	+4.5	0.69	+0.02
うち大企業	29.2	+3.8	0.59	+0.04
中堅・中小企業	24.2	+1.4	0.70	+0.02
個人	12.0	▲0.2	1.10	+0.02
海外運用資産（億ドル）*3	3,429	▲204	1.43	+0.01

▶ 国内預貸金利回差

(%)	26年度上期	前年同期比	1Q	2Q
貸出金利回	1.68	+0.40	1.61	1.76
預金等利回	0.34	▲0.16	0.30	0.38
預貸金利回差	1.34	+0.24	1.31	1.38



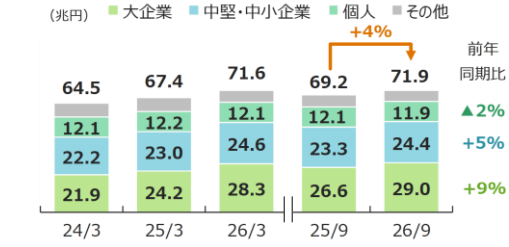
*1 SMBC *2 内部管理ベース
*3 SMBC、主要現地法人、SMBC信託等の合算。GBにおける貸出金・貿易手形・有価証券の合計。資金コスト対比のスプレッドを記載
*4 為替影響等調整後ベース

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

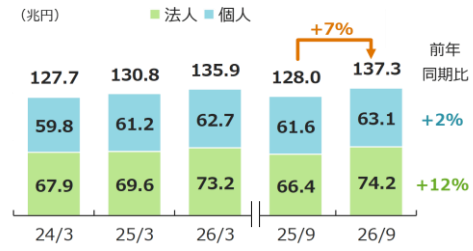
国内預貸金*1

活発な資金需要を捉えて法人向け貸出金残高は大企業を中心に堅調に推移
個人預金はOlive効果を主因に増加、法人も大口先を含め運用ニーズの捕捉に注力し増加

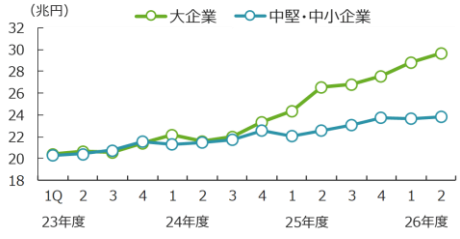
▶ 貸出金残高*2,3



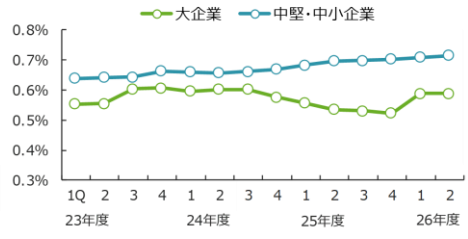
▶ 預金残高



▶ 法人向け平均貸出金残高*2,4



▶ 法人向け貸出金スプレッド*2,5



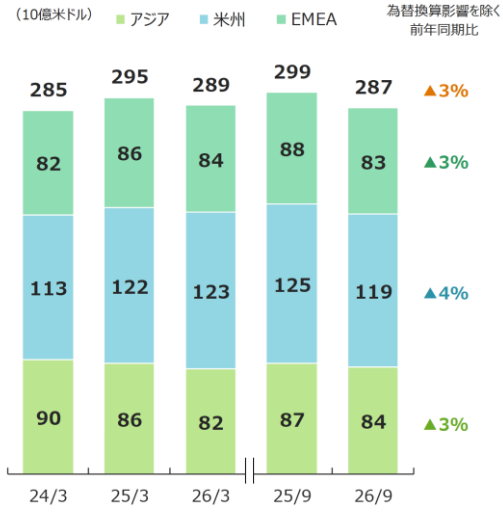
*1 SMBC *2 内部管理ベース *3 25/9より中堅・中小企業の集計方法を変更、遡及反映を実施
*4 四半期平残、政府向け等を除く。中堅・中小企業はエリア企業向けを除く *5 ストックベース、政府向け等を除く

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

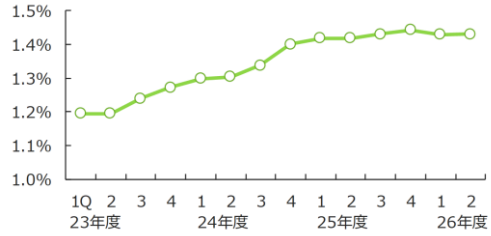
海外預貸金*1

低採算アセットの削減と高採算案件の選別的な取組により貸出金残高は減少する一方、
高採算案件を中心に市場全体で競争が激化している中、スプレッドを維持

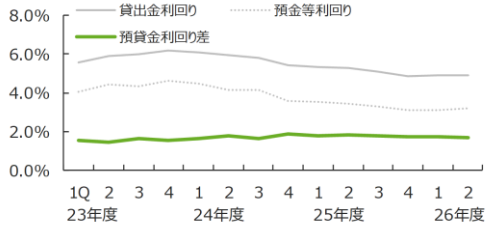
▶ 貸出金残高



▶ 貸出金スプレッド*2,3



▶ 預貸金利回差

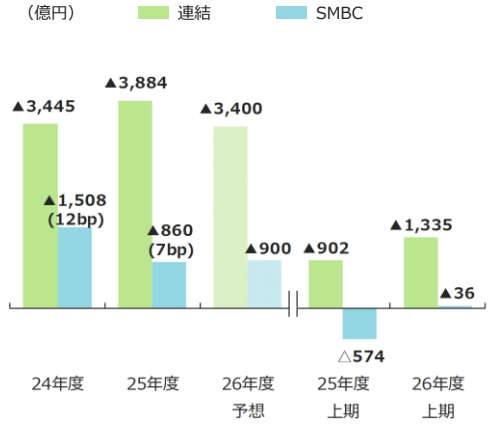


*1 内部管理ベース。SMBCと主要現地法人の合算 *2 ストックベース
*3 24年度より集計方法の変更、遡及反映を実施

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

アセットクオリティ

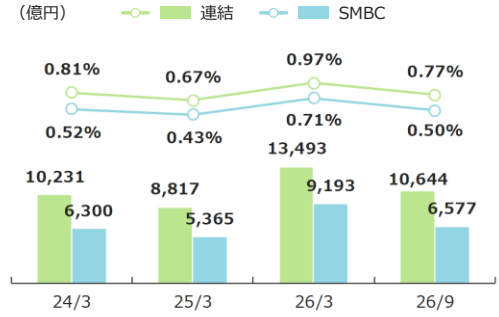
▶ 与信関係費用



連単差の主な内訳（概数）

（億円）	26年度上期	前年同期比
SMCC	▲ 820	▲ 110
うちSMBCCF	▲ 510	▲ 100
海外銀行現法	▲ 260	△ 260
SMICC	▲ 230	△ 30

▶ 不良債権比率*1・残高



不良債権内訳（連結）*2

（億円）

国内	4,554	5,844	5,054
アジア	1,749	2,469	2,353
米州	1,175	3,673	2,447
EMEA	1,339	1,507	791

その他要注意先（除く要管理債権）

（兆円）

SMBC	1.7	1.2	1.2

総与信末残

（兆円）

連結	131	139	138
SMBC	123	130	131

*1 不良債権比率＝銀行法および再生法に基づく債権残高（除く正常債権）／総与信　*2 内部管理ベース

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

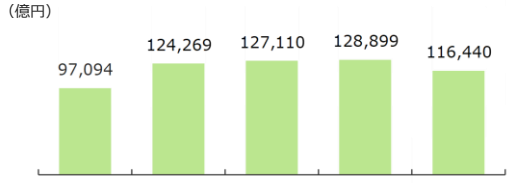
有価証券

▶ その他有価証券の内訳（連結）

（億円）	残高		評価損益	
	26/9末	26/3末比	26/9末	26/3末比
満期保有目的	62,051	+15,498	▲ 4,079	▲2,293
その他有価証券	341,969	▲5,058	30,524	▲682
国内株式	36,914	+1,882	26,223	+1,251
国内債券	74,783	▲784	▲ 4,227	▲1,515
うち国債	55,828	+1,063	▲ 2,461	▲1,257
その他	230,272	▲6,155	8,528 *1	▲418
うち外債	177,585	▲7,763	▲ 6,316	▲3,311

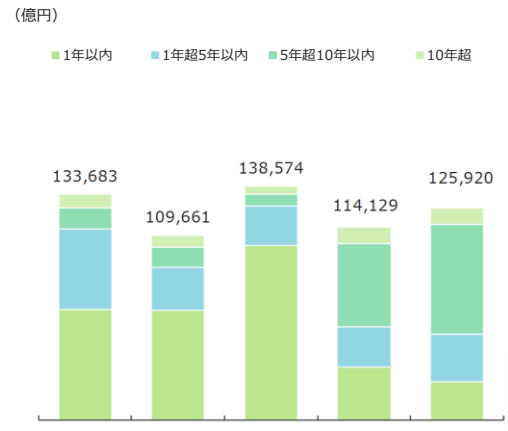
ヘッジ取引も活用し、リスク量はコントロール

▶ 外債（SMBC）



	23/3	24/3	25/3	26/3	26/9
評価損益	▲ 6,622	▲ 4,589	▲ 3,151	▲ 5,761	
デュレーション（年）*2	4.2	3.6	2.6	2.8	

▶ 円債（SMBC）



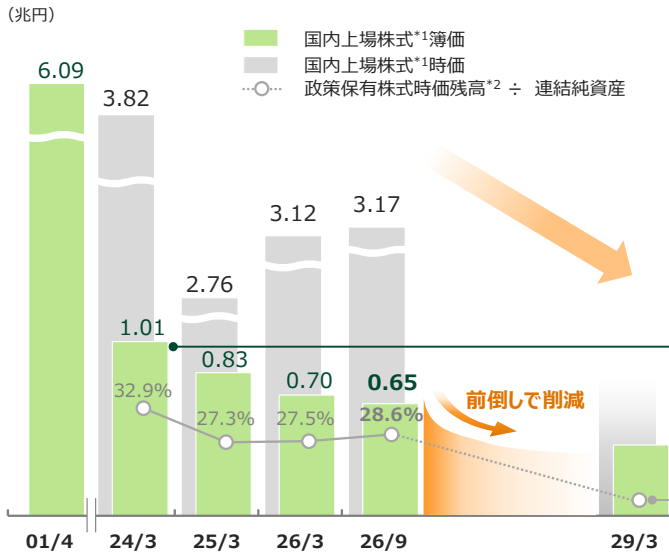
	23/3	24/3	25/3	26/3	26/9
評価損益*3	▲ 982	▲ 1,409	▲ 2,597	▲ 4,012	
デュレーション（年）*2	2.1	1.0	3.9	4.9	
満期保有残高	223	223	40,876	53,974	
JGB残高*3	75,474	111,805	52,964	53,192	

*1 外国債券との差額は外国株式等　*2 内部管理ベース。ヘッジ会計適用分・満期保有分を除く、私募債を含まず
*3 満期保有目的を除く

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

政策保有株式

計画の年間標準進捗となる簿価1,200億円削減に向けて、下期は削減を加速
足元の株価上昇で、連結純資産に対する時価残高比率の上昇が続いているため、時価残高の削減にも注力



削減状況

削減額	**△3,570億円**
24年度	**△1,850億円**
25年度	**△1,240億円**
26年度上期	**△480億円**
応諾済未売却額	560億円

削減計画（24-28年度）
△6,000億円

目標：**20%未満**

*1 20/3末以降の業務提携目的の出資を除く *2 有価証券報告書に記載される「みなし保有株式」の残高を含む

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

バランスシート

▶ 連結B/S

（ ）内は26/3末比

貸出金

117.0兆円（▲0.6兆円）

国内貸出金*1	71.9兆円

有価証券

41.2兆円（+1.2兆円）

国債*2	5.6兆円
外国債券*2	17.8兆円

その他

168.0兆円（▲2.8兆円）

現預金	68.7兆円
日銀当座預金*1	49.5兆円

預金

199.6兆円（▲1.8兆円）

預貸率 58.6%

国内預金*1	137.3兆円
譲渡性預金（NCD）	12.2兆円

その他

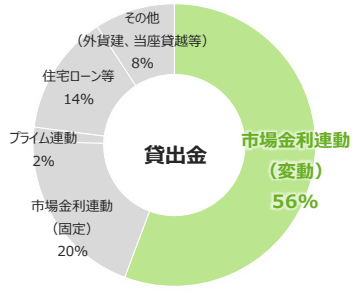
110.6兆円（▲0.5兆円）

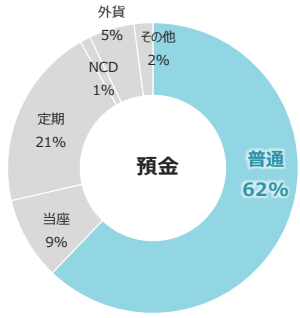
純資産

16.0兆円（+0.1兆円）

総資産 326.2兆円（▲2.2兆円）

▶ 預貸金の構成比（SMBC）*3





*1 SMBC *2 満期保有目的を除く *3 内部管理ベース

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

外貨流動性

▶ 外貨B/S*1,2

（10億米ドル、（）内は26/3末比）

貸出金
343（+2）

顧客性預金（含む中銀預金）
332（+17）

中長期調達（社債、円投等）
141（+3）

その他
195（▲7）

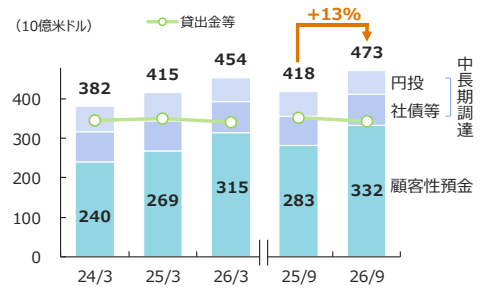
CD／CP
79（▲14）

外債、NCD
87（+1）

インターバンク（含むレポ）
73（▲10）

資産・負債　625（▲4）

▶ 外貨ファンディング



（参考）外貨金利の変動影響

預貸金

- 貸出金・預金とも、大宗は基準金利連動
- 一部、金利感応度の低い流動性預金によって外貨金利±1.0%で資金利益±200億円

*1 内部管理ベース　*2 SMBCと主要現地法人の合算

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

事業部門別実績①

▶リテール

- 金利上昇に伴う預金収益増加と、好調な資産運用・決済ファイナンスビジネスにより業務粗利益は増加
- コストコントロール施策の着実な積み上げにより経費率が改善、当期純利益は増益、ROTEは大幅に上昇

（億円）	26年度上期	前年同期比*1
業務粗利益	8,859	+1,544
うち預金収益	1,645	+815
貸金収益*2	313	▲ 39
資産運用ビジネス	2,248	+491
決済ビジネス	3,074	+203
コンシューマーファイナンス	1,661	+96
経費	▲ 6,149	▲ 585
経費率	*69.4%*	*△6.7%*
業務純益	2,755	+975
与信関係費用	▲ 814	▲ 108
当期純利益	1,397	+525
ROTE	22.0%	+7.1%
リスクアセット（兆円）	12.2	+0.9

▶ホールセール

- 貸出金増加と預貸金利回差改善により預貸金収益は拡大、非金利収益も着実に拡大し、業務粗利益は増加
- 業務純益と当期純利益も着実に増加し、ROTEは上昇

（億円）		26年度上期	前年同期比*1
業務粗利益		8,171	+1,602
	うち預金収益	2,343	+865
うち SMBC	貸金収益	1,610	+237
	外為・為替手数料	840	+55
	シンジケーション	279	+21
	ストラクチャードファイナンス	379	+87
	不動産ファイナンス	91	▲ 18
証券		492	+55
経費		▲ 2,554	▲ 203
経費率		*31.3%*	*△4.5%*
業務純益		6,211	+1,348
与信関係費用		▲ 114	▲ 106
株式等損益		1,061	▲ 70
当期純利益		5,066	+813
ROTE		20.7%	+2.6%
除く政策保有株式売却益		16.9%	+2.8%
リスクアセット（兆円）		45.0	+2.5

*1 内部管理ベース（為替影響等調整後） *2 コンシューマーファイナンスを除く

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

事業部門別実績②

▶ グローバル

- 採算性を重視した選別的な案件取組により貸金収益が減少、業務基盤強化のための経費投入もあり、業務純益は減益
- 与信関係費用は改善するも、当期純利益は減益、ROTEも低下
  厳格なアセット管理によりリスクアセットは削減

（億円）	26年度 上期	前年 同期比[*1]
業務粗利益	7,570	▲ 140
うち預金収益	988	+78
貸金収益	2,669	▲ 210
ローン関連手数料	1,475	▲ 49
証券	593	+84
経費	▲ 5,366	▲ 298
経費率	*70.9%*	*▲5.2%*
持分法投資損益	581	▲ 56
業務純益	3,000	▲ 477
与信関係費用	▲ 545	△144
当期純利益	1,872	▲ 282

ROTE	7.0%	▲0.8%
除く一過性要因[*2]	7.0%	+0.1%
リスクアセット（兆円）	48.3	△ 2.3

▶ 市場

- ボラタイルな環境の中で、機動的なポートフォリオ運営により
  リスク量をコントロールし、着実にバンキング収益を蓄積
- S&Tビジネスも着実に改善し、業務純益・当期純利益は増加、
  ROTEも大幅に上昇

（億円）	26年度 上期	前年 同期比[*1]
業務粗利益	4,489	+1,118
うちSMBC	3,379	+1,033
SMBC日興	761	+140
経費	▲ 1,261	▲ 182
経費率	*28.1%*	*△3.9%*
業務純益	3,393	+924
当期純利益	2,375	+646

ROTE[*3]	31.7%	+8.6%
リスクアセット（兆円）	7.9	+1.3

*1 内部管理ベース（為替影響等調整後） *2 SMBCACによる保険金受領影響の剥落等を除く
*3 バンキング勘定の金利リスク見合いを含む

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

事業部門別の中期経営計画進捗*1

	ROTE			業務純益（億円）			リスクアセット（兆円）		
	26年度上期	前年同期比	28年度計画	26年度上期	前年同期比	28年度計画	26年度上期	25年度比	28年度計画*5
リテール	22.0%	+7.1%	24%	2,755	+975	7,050	12.2	+0.3	+1.0
ホールセール	20.7% (16.9%)*2	+2.6% (+2.8%)*2	21%	6,211	+1,348	13,150	45.0	+1.5	+2.5
グローバル	7.0%	▲0.8%*3 (+0.1%)	9%	3,000	▲477	7,900	48.3	△1.1	+0.5
市場*4	31.7%	+8.6%	16%～	3,393	+924	4,000～	7.9	+0.3	+1.8

*1 28年度基準の内部管理ベース
*2 政策保有株式売却益を除く *3 SMBCACによる保険金受領影響の剥落等を除く
*4 バンキング勘定の金利リスク見合いを含む *5 金利・為替・再編影響等調整後の25年度比

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

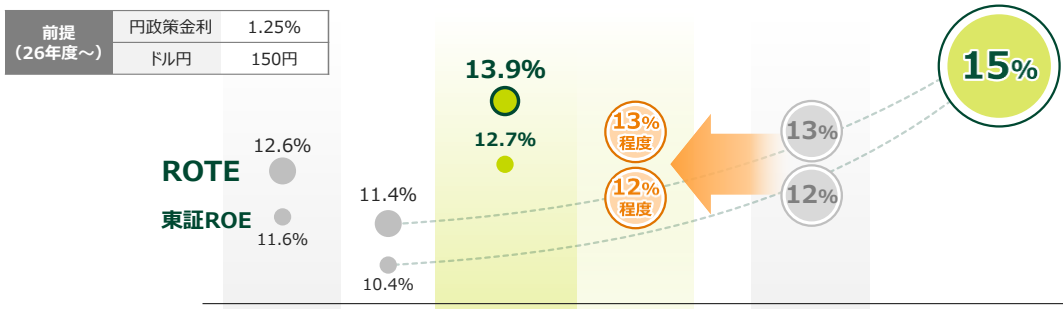
Globally connected. Rooted in Japan.
Your most trusted partner.

中期経営計画の進捗

ここからは、この5月に公表した中期経営計画の進捗についてご説明します。
次のページにお進みください。

3カ年目標達成に向けて順調な進捗

良好な業務環境と着実な戦略実行により、中期経営計画の初年度は好調に滑り出し
利益成長と経費・資本効率の改善が進展してROTEは大きく向上、目標の早期達成を目指す



ROTE向上のドライバー	25年度上期*1	25年度通期	26年度上期	26年度通期	28年度目標	中長期
ボトムライン利益	8,685億円		1兆円	1.9兆円	2兆円	2兆円台半ば
経費率	53.5%		51.5%		50%台前半	
粗利RORA	4.2%		+0.3%*2		+0.5%*2	
CET1比率	10.2%		10.4%		10.5%程度	

*1 除くKotak売却益940億円（税前） *2 25年度実績4.3%対比、円金利上昇・為替影響を除く

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

中期経営計画初年度のこの上期は、良好な業務環境に加え、
着実な戦略の実行により、好調な滑り出しとなりました。
先ほどお伝えの通り、ボトムライン利益は半期で1兆円を超え、
通期では1兆9,000億円を見込んでいます。

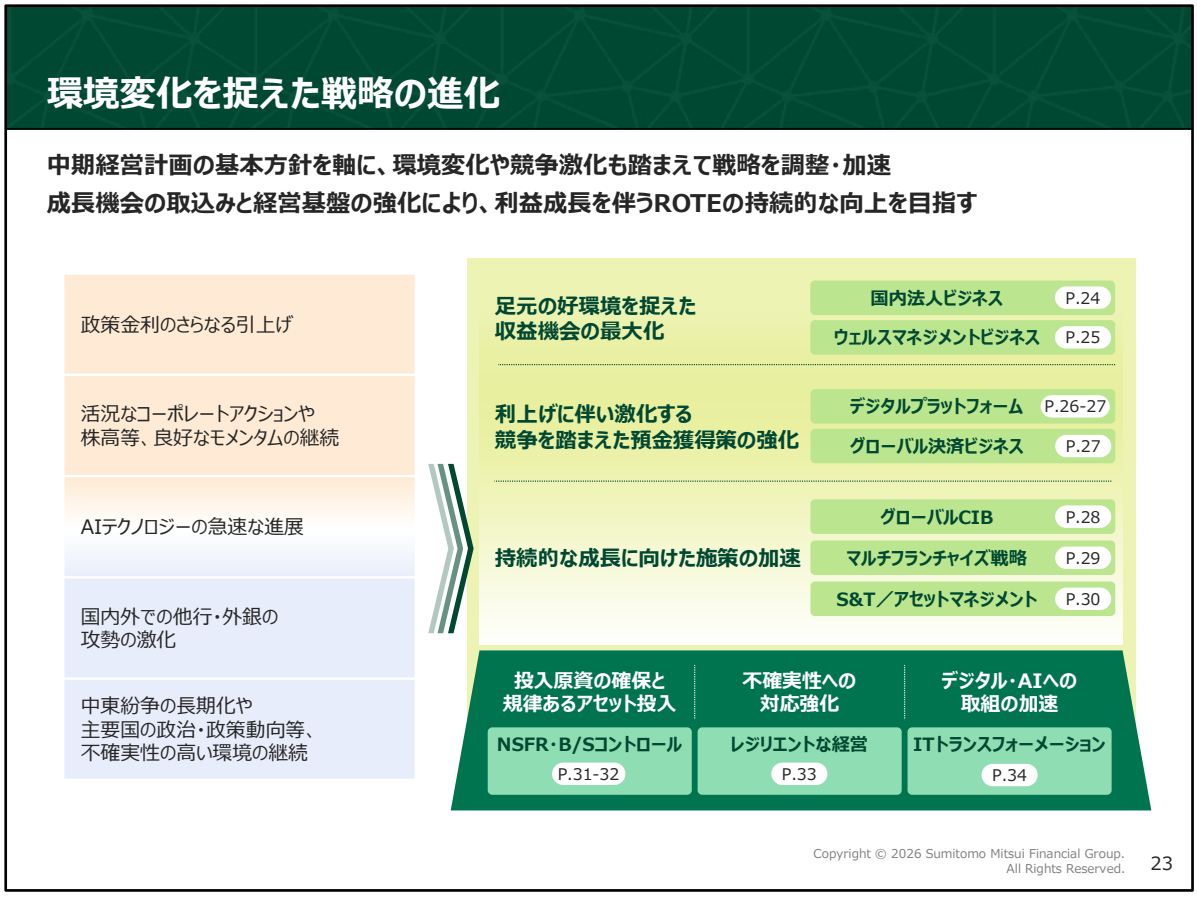
また、利益の規模だけでなく、利益の質も改善しています。
経費や資本の効率性改善を進め、ROTEは前年同期と比較しても大きく向上しており、
今年度通期で13%程度まで引き上げたいと思っています。

中期経営計画の最終年度である28年度の目標が、
ボトムライン利益で２兆円、ROTEで13%でしたので、
初年度からほぼこの目標に近い水準まで成長する見込みです。

28年度目標の早期達成を目指すのは当然ながら、足元の力強い成長を踏まえれば、
当初想定していたより高い目標へのチャレンジも可能だと思っています。

下期にかけて、事業環境やビジネスのモメンタムも踏まえながら、
この3カ年でどこまで目指せるか議論の上で、
来年5月の通期決算発表時には、中計についても新しい目標をお示ししたいと思います。

次のページにお進みください。



より高い目標へ向かうには、環境変化を捉えながら戦略を進化させていくことが必要です。
足元では、国内の政策金利の引上げや、
活発なコーポレートアクションの継続等の追い風が期待される一方、
国内の預金獲得における競争の激化や
地政学リスク等の不確実性の高い環境の継続も想定されます。
AIの急速な進展は、業界の構図を一気に変える可能性も秘めています。

こうした環境の変化に対して、柔軟に必要な対応を講じつつ、
中計で掲げた戦略の強靭化を図ってまいります。
あわせて、経営基盤の強化も進め、
利益成長を伴うROTEの持続的な向上を目指していきます。

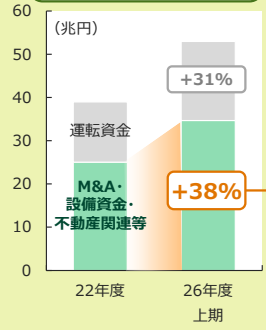
次のページから、当社の具体的な取組内容についてご説明します。

国内法人ビジネスの競争力向上

M&A等の活発なコーポレートアクションを取り込み、貸出残高・非金利収入を拡大
大企業取引を中心に体制整備を加速し、収益機会の最大化とさらなる採算性向上を目指す

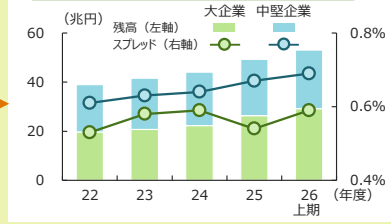
資金需要への対応を通じた収益基盤の拡大

資金使途別 貸出金平残

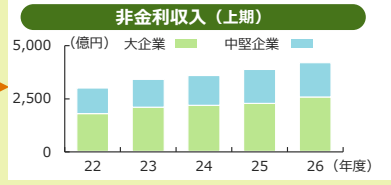


	残高増加率*1,2	貸出金利回り*1,3
SMBC	+29%	1.68%
競合A	+23%	1.52%
競合B	+20%	1.67%

貸出金平残 / スプレッド



非金利収入（上期）



大企業
- 大口案件を捕捉し貸出・非金利ともに拡大、採算を意識した運営によりスプレッドも改善

中堅企業
- 多様なソリューション提供により着実に成長

さらなる採算性向上への取組

26年度上期 ROTE*4 **16.9%** 》 28年度 **20%** 程度を展望

貸出金 / スプレッド

- 預金獲得やアセットコントロールを通じたリスクテイク余力の創出
- 大口資金需要への対応強化
- 産官学連携による注力セクターへの対応力強化

非金利収入

- Jefferiesとの日本株事業JVを設立し、証券ビジネスを加速

証券リーグテーブル

	26年度上期	28年度目標
M&A*5	6位	2位
株式	4位	1位
債券*6	2位	1位

*1 各社開示資料をもとに作成 *2 23/3末と26/9末の貸出金残高の比較 *3 26年度上期 *4 政策保有株式の売却益を除く
*5 1,000億円以上かつ国内企業関連の案件 *6 国内企業を発行体とした案件

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

まず、足元の好環境を捉えた収益機会の最大化について、
このページでは国内法人ビジネスを、
次のページでウェルスマネジメントビジネスについてご説明します。

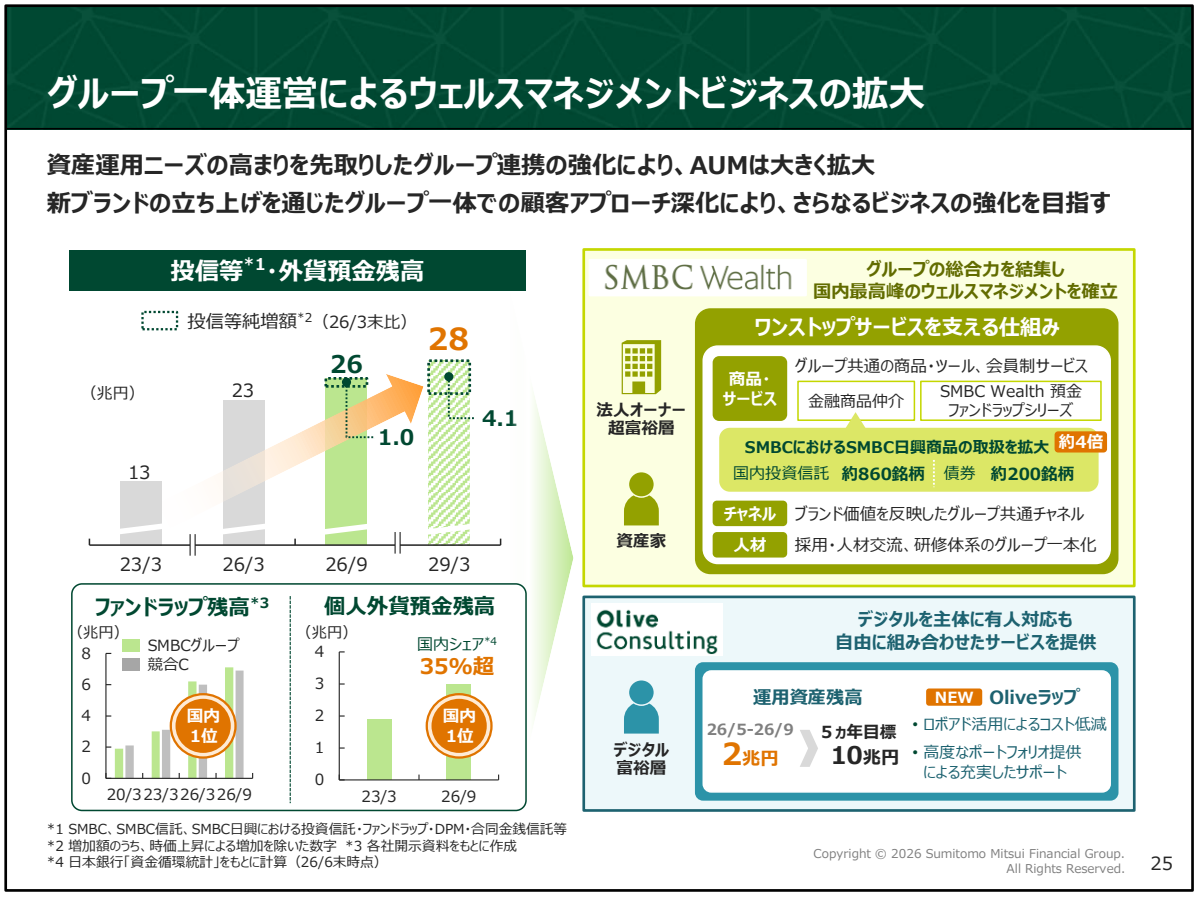
国内法人ビジネスでは、活発なコーポレートアクションや旺盛な資金需要を着実に捉え、
さらなる成長につなげています。
この数年においては、運転資金に加え、M&Aや設備投資に伴う資金需要を取り込み、
貸出残高を大きく伸ばしています。
競合との比較でも、貸出残高の成長率、貸出金利回り、
いずれも他社を上回っており、量と質の両面で競争力を発揮しています。

こうしたさまざまな資金需要への対応を通じて、
大企業・中堅企業それぞれで貸出残高・スプレッドを引き上げつつ、
付帯取引も獲得し、非金利収入の増加にもつなげています。

特に、大企業ビジネスにはさらなるポテンシャルがあると見ています。
グローバル化・大型化する案件に対応するべく、
リスクテイク余力の創出や大口資金需要への対応力強化を進めるとともに、
注力セクターへの対応力を高めていきます。
あわせて、来年1月に業務開始を予定するJefferiesとの日本株事業のJVを通じて、
証券ビジネスの強化を加速し、非金利収入の拡大につなげていきます。

既に国内トップの中堅企業向けビジネスの顧客基盤・収益基盤を
一層強固にするとともに、大企業向けビジネスを一段と強化することで、
中計最終年度の28年度には、ROTE20%程度の達成を目指します。

次のページへお進みください。



続いて、ウェルスマネジメントビジネスです。

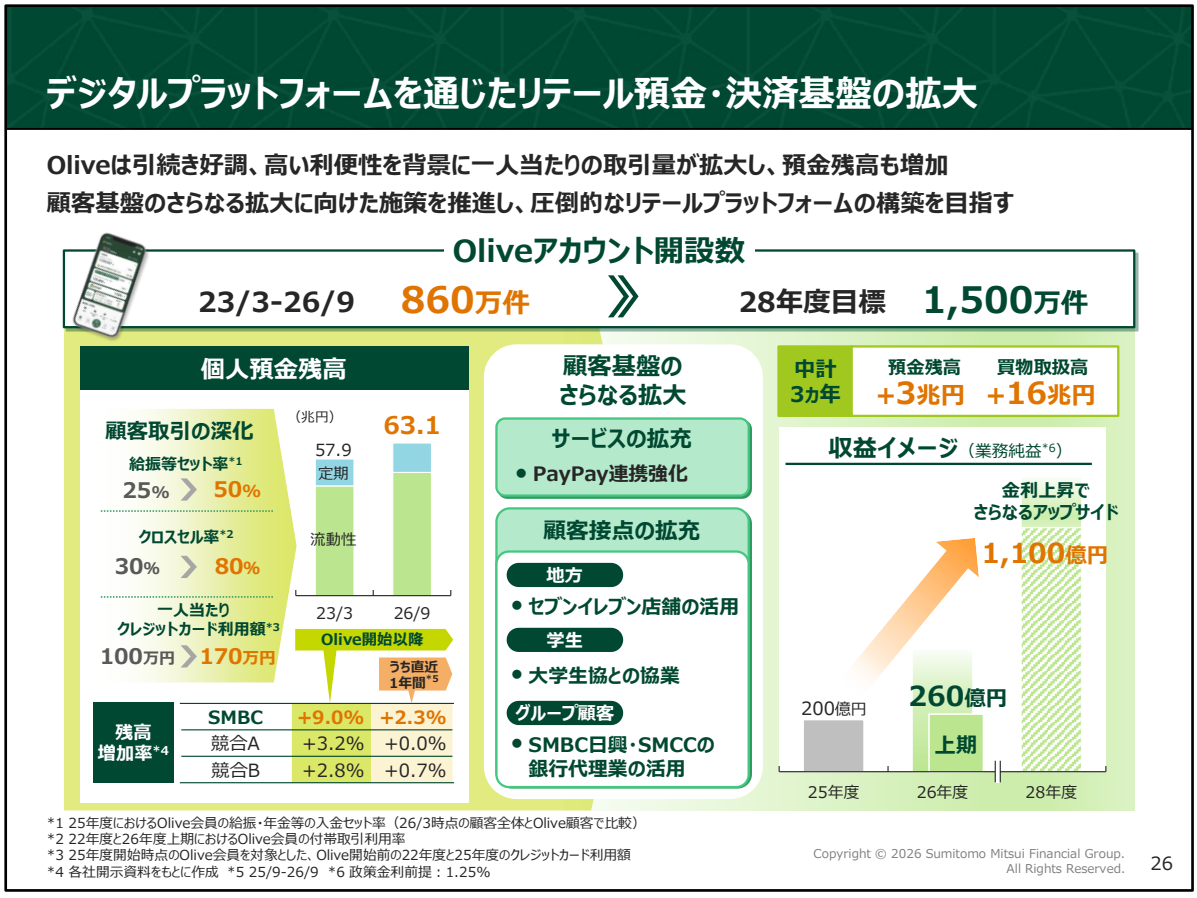
ウェルスマネジメントは、資産運用ニーズの高まりを先取りし、
グループ連携を進めてきたことで、大きく成長してきた分野です。
好調なマーケットによる時価上昇に加えて、
新たな預かり資産の獲得も進めることで、AUMは大きく増加しています。
中でも、ファンドラップや外貨預金は国内随一の規模を誇っています。

こうした成長をさらに加速すべく、先日、SMBCグループの
新たな統一ブランド「SMBC Wealth」の本格展開を開始しました。
このブランドのもと、グループの総合力を活かした高品質なサービスを提供していきます。

まずは本邦初の取組として、銀行のお客さまに、
SMBCグループの商品をワンストップで提供できるよう、
SMBCにおけるSMBC日興証券の商品取扱いを大きく拡大しました。
今後は株式等にも取扱いを広げ、
お客さまのニーズに応じた商品・サービスを、より幅広く提案できる体制を整えていきます。

また、デジタル富裕層のお客さまには、
Oliveコンサルティングを通じて、デジタルを主体としつつ、
有人での対応も受けられるフレキシブルコンサルティングを提供しています。
運用資産残高はサービス開始から約4カ月で2兆円に達し、
順調な滑り出しとなっています。
今後も、新たな商品の提供等による顧客基盤の拡大を進め、
運用資産残高は5カ年で10兆円を目指します。

次のページへお進みください。



次に預金獲得に向けた施策についてです。
利上げに伴い預金獲得競争が激化していますが、
預金獲得力は当社の譲ることのできない強みです。
デジタルプラットフォームとグローバル決済ビジネスを通じて、さらなる差別化を進めます。

まず、個人向けプラットフォームのOliveです。
足元のアカウント数は860万件となり、顧客基盤は順調に拡大しています。
これは、単なる顧客数の増加ではありません。
Oliveの提供する高い利便性を背景に、
お客さま一人ひとりの取引量が増加し、クロスセルも進んでいます。
メイン口座としての利用が広がることで、預金残高の増加率も他社を上回っており、
顧客基盤の拡大が預金の増強につながっています。

今後は、顧客基盤のさらなる拡充、他社との差別化を一段と進めます。
外部パートナーとの連携の強化に加えて、地方・学生・グループ会社の顧客といった、
これまで十分にアプローチできていなかった顧客層の取り込みも進めていきます。

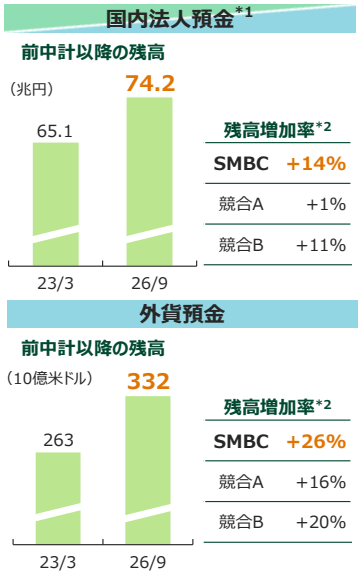
こうした取組により、28年度にはアカウント数1,500万件を目指すとともに、
預金は3カ年で3兆円増加させる計画です。
収益面でも、Oliveの業務純益は28年度に1,100億円への成長を見込んでおり、
利上げの進展によってはさらなるアップサイドも期待できます。

顧客基盤の拡大と取引の深まりを、預金・収益の成長につなげ、
国内における圧倒的なリテールデジタルプラットフォームの構築を目指します。

次のページにお進みください。

決済ニーズ起点での国内外の法人預金増強

強みである中堅企業の顧客基盤とTrunkの順調な進捗を背景に円預金残高が増加
外貨預金も、SMBC Connectブランドの下で機能強化が進み残高が増加



中堅企業
スピード感のある高付加価値な提案と
顧客とのリレーションシップを強みに、預金残高を拡大
残高増加率*3 +22%

中小企業
商流全体を捉えた豊富なサービスを提供
Trunk
新設法人の4社に1社が申込み

	25/5-26/9	28年度
口座数	10万口座	30万口座
預金残高	5,500億円	3兆円

機能追加
新法人カード / ファクタリング
決済端末連携 / AI Agent

グローバル企業
顧客体験を刷新し続け、グローバルにサービスを展開
SMBC Connect+

ユーザビリティ改善	接続性向上	AI活用
直観的な操作性のインターフェース	顧客システムと柔軟に連携	財務分析・意思決定サポートツール

導入先拡大へ

*1 国内法人の外貨預金を含む *2 各社開示資料をもとに作成 *3 大企業を除く国内法人預金残高の増加率（23/3-26/9）

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

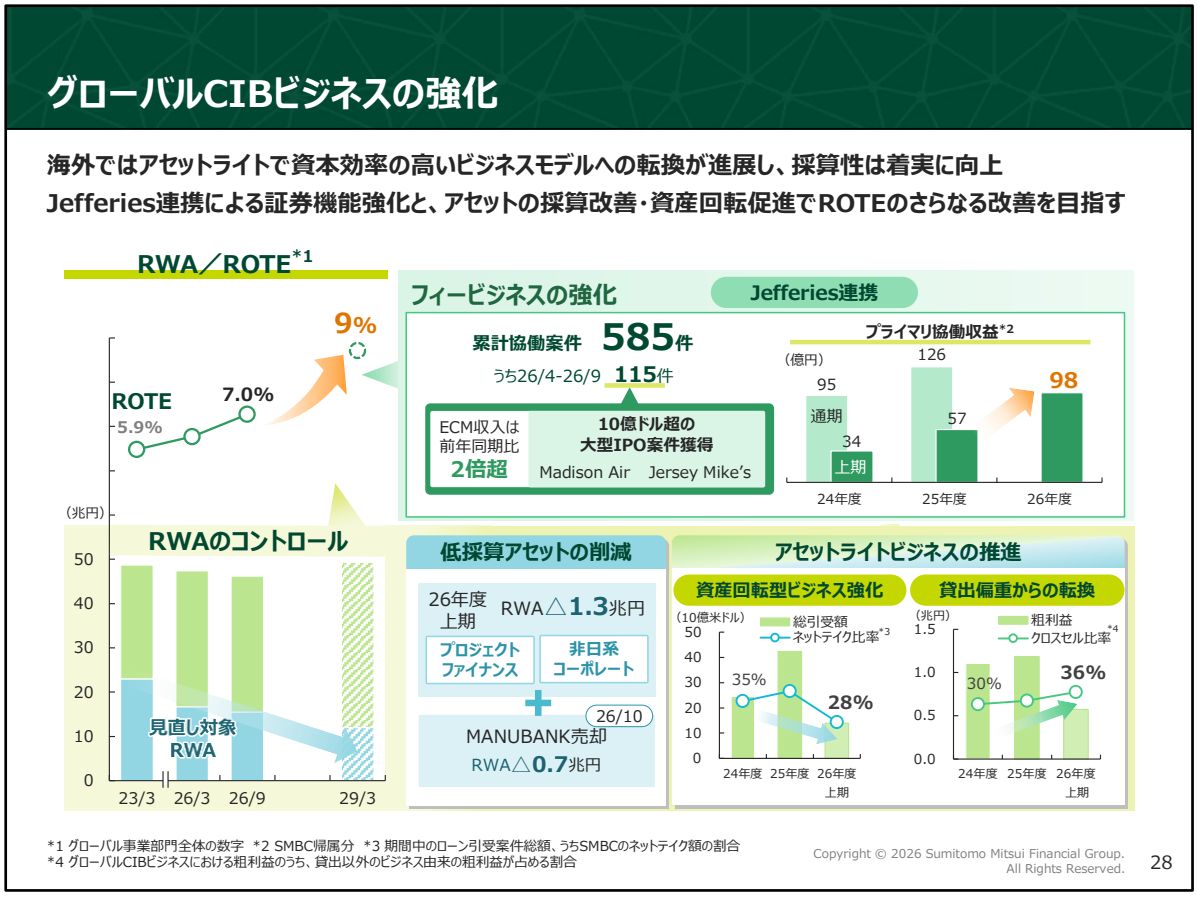
国内外の法人に対しても、
デジタルプラットフォームの活用とグローバル決済ビジネスの強化により、
さらなる預金獲得を目指します。

法人円預金については、
SMBCグループが伝統的に強みを持つ中堅企業に対し、
スピード感のある高付加価値な提案を通じて、
顧客とのリレーションシップを深め、預金残高を着実に伸ばしています。

また、中小企業向けのプラットフォームであるTrunkでは、
豊富なサービスと高い利便性を背景に、順調に顧客基盤を拡大できており、
すでに、新設法人の4社に1社がお申し込みくださっている状況です。
ここからさらに新機能の追加を進め、
預金、決済、クレジットカード、加盟店サービス、ファイナンス、経理DXといった、
お客さまの商流全体を支えるプラットフォームへと進化させることで、
顧客基盤の拡大と預金獲得につなげていきます。

トランザクションバンキングによるグローバル企業からの預金獲得も順調です。
SMBC Connectの統一ブランドの下で、
機能の継続的なアップデートを行いながら、
顧客支援体制も強化することで、日系・非日系を問わず
サービス導入先を拡大していきます。

次のページにお進みください。



ここまで、足元の増益を牽引している国内ビジネスを中心にご説明してきましたが、
将来の持続的な成長に向けた取組をしっかり進めることも重要です。

まずグローバルCIBビジネスでは、
フィービジネスの強化とリスクアセットのコントロールを両輪として、
ROTEの着実な改善を進めています。

フィービジネスでは、Jefferiesとの協働が順調に拡大しています。
提携を開始して以降、協働収益は毎期増加しており、
特に今期は、大型IPOの組成等を背景に、
ECM収益が前年同期比で2倍以上の水準となりました。

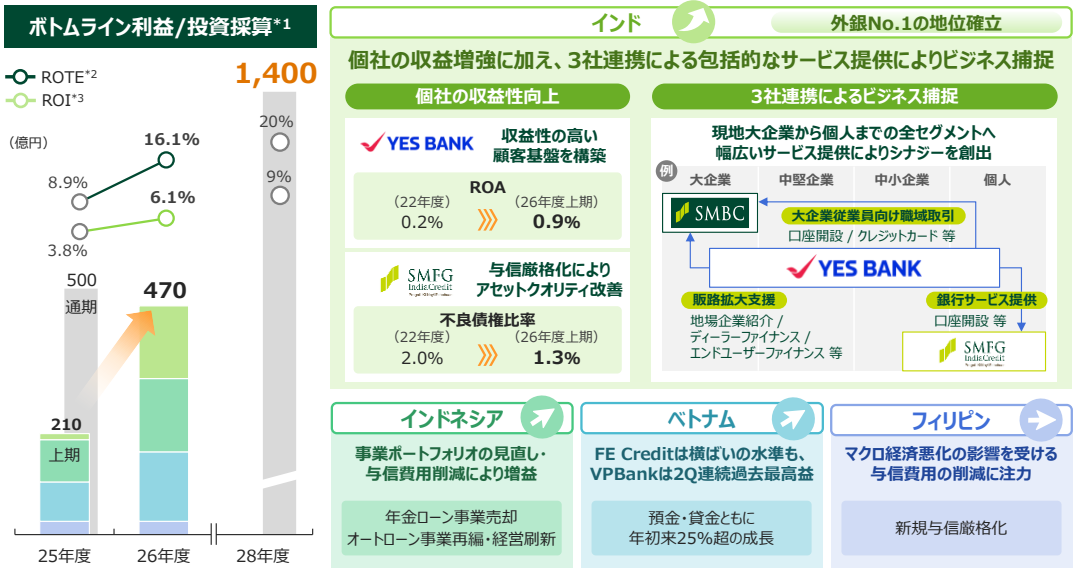
リスクアセットのコントロールにおいては、
前中計から実施している低採算アセットの削減をさらに進めています。
今年度においては、米国でリテール向けのデジタルバンクと
商業銀行ビジネスを展開していたMANUBANKの売却も実施し、
注力ビジネスの絞り込みを進めています。

また、アセットライトビジネスも推進しています。
資産回転型ビジネスの強化に向けたディストリビューションのさらなる推進や、
貸出以外から得られる収益の比率を高めながら、
より資本効率の高いビジネスへの変革を進めていきます。

次のページにお進みください。

アジアでの成長実現

各国での成長戦略の効果が顕在化し、ボトムライン利益は前年同期比で倍以上に成長
インドにおける3社連携は案件創出フェーズへ進展、さらなる成長を追求



*1 現地会計ベース、のれん償却前 *2 内部管理ベース *3 ボトムライン利益÷累計出資額

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

マルチフランチャイズ戦略については、
これまで当初想定していた成果が出ていませんでしたが、
各国での取組が実を結び、ようやく業績の改善方向が明確になってきました。
YES BANKの利益取込による効果を除いても
それぞれの国で利益が伸びており、
この上期の実績は昨年度の倍以上になっています。

成長を牽引しているインドでは、
YES BANKとSMICC、それぞれの収益性が向上していることに加え、
SMBCの支店を加えた3社の連携が進んでいます。
シナジー創出につながる案件もすでに多数出てきており、
さらなる成長を追求していきます。

そのほかの国においても、
インドネシアでは事業ポートフォリオの見直しが進展、
ベトナムではVPBankの預貸金が高い成長率で増加、
フィリピンでもアセットクオリティの改善に向けた取組が進んでいます。

業績が回復してきたとはいえ、もちろん、
まだまだ満足のいく水準だとは思っていません。
28年度で1,400億円の目標達成に向け、
引き続き収益性向上への取組を進めます。

次のページにお進みください。

将来の収益拡大に向けたビジネスの強化

S&Tビジネスは、海外顧客フローのさらなる取込に向けて体制・基盤強化を推進
アセットマネジメントビジネスは、強みのアクティブ運用が高い利益成長とAUM拡大を牽引、さらなる成長を追求

▶ S&Tビジネス

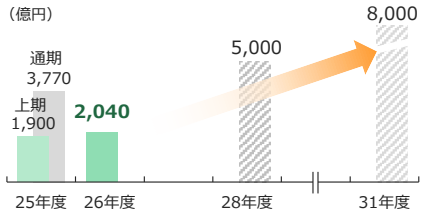
グローバルトップティアにふさわしい体制強化

- プラットフォーム：Jefferiesのシステム・顧客基盤
- リーダーシップ：フロー増強に向けた米州レーツ等の人材登用
- リスク管理：グローバルに連携強化

エッジ活用による差別化

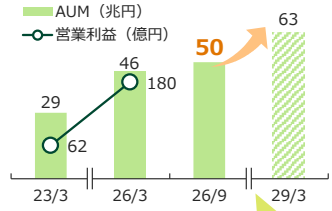
銀行B/S活用 × ソリューション提供力（J-MONEY 総合評価 No.1）
円プロダクト

S&T収益



▶ アセットマネジメントビジネス

グループAUM／SMDAM営業利益*1



営業利益3カ年増加率*2

SMDAM	+191%
競合A	+86%
競合B	+78%
競合C	+50%
競合D	+33%

アクティブ運用での差別化

国内リテール アクティブ投信残高
26/9末 9兆円 → 36/3末 20兆円

高評価商品の拡充
革命シリーズ 8,700億円

アクティブETFの本格展開
SMBC Prime ETF

海外プライベートアセットビジネス

SMBCのオリジネーション力活用

- 欧州でのLBO２号ファンド募集開始
- 外部パートナーとのジョイントベンチャープログラム

OCIO*3本格展開

*1 のれん調整後 *2 22-25年度での比較 *3 Outsourced Chief Investment Officer

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.
30

持続的な成長の実現に向けては、
ボラティリティの上昇局面で収益拡大を見込めるS&Tビジネスと、
資本を大きく使わずに収益を積み上げるアセットマネジメントビジネスも重要です。

S&Tは、これから本格的に立ち上げていくビジネスですが、
裏を返せばポテンシャルの大きい領域です。
海外の顧客フローをさらに取り込むための体制・基盤の整備を進めるとともに、
銀行の強固なバランスシートの活用や、円プロダクトといった邦銀ならではの強み、
そして、質の高いソリューション提案により、差別化を図っていくことで、
次期中計以降の増益ドライバーとしていきたいと考えています。

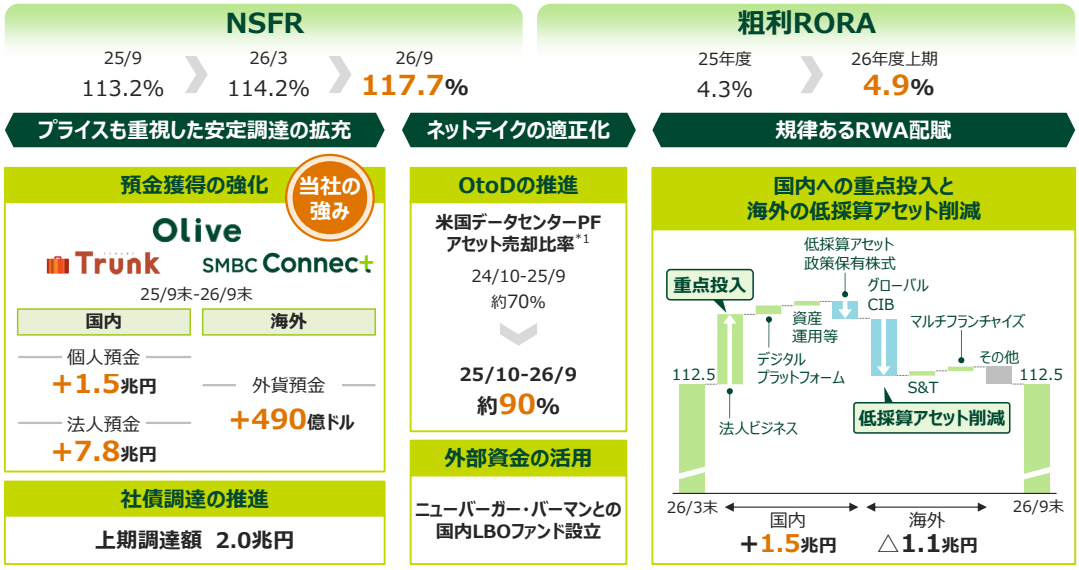
アセットマネジメントでは、
三井住友DSアセットマネジメントの強みであるアクティブ運用が、
グループAUMと収益の成長を牽引してきました。
引き続き運用力による差別化を追求しながら、
SMBCの持つオリジネーション力を活かして
プライベートアセットマネジメントビジネスを拡大し、
アドバイザリー機能の提供による一任受託等も通じて
さらなるAUMの拡大を図ります。

いずれも、一朝一夕に競争力を築けるビジネスではありません。
人材や機能強化のための投資を継続し、収益力を中長期的に高めていきます。

次のページにお進みください。

NSFR改善と収益性向上に向けたB/S運営の高度化

強みの預金獲得力に加え、社債調達とネットテイクの適正化によりNSFRを改善
確保した投入余力で国内の旺盛な資金需要に対応し、資産回転・アセット削減と合わせて粗利RORAを向上



*1 その期間における、データセンターPFアセット売却額/データセンターPF実行額

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

31

ここまで当社の成長戦略についてご説明してきましたが、
その実行にあたってのバランスシート運営について、流動性と収益性の面からご説明します。

国内の旺盛な資金需要に応えるためには、資本の十分性だけでなく、
安定した資金調達基盤の確保が欠かせません。
当社の強みである預金獲得力を活かすとともに、社債調達や資産回転を組み合わせ、
成長に必要な投入余力を創出しています。
その結果、安定調達の状況を示すNSFRは、
昨年9月末の113.2%から、今年9月末には117.7%に改善しました。
調達の量の確保に加え、プライスにも規律を持ち、
安定性とコストのバランスを取った運営を継続していきます。

こうして捻出した投入余力に加えて、海外を中心とした低採算アセットの削減によって、
国内の法人ビジネス等の注力領域へアセットをしっかり配賦し、
採算性のさらなる引き上げを進めます。
粗利RORAは、昨年度の4.3%から今年度上期には4.9%となりました。

安定した調達を増やし、資産を回転させながら、採算の高い領域にアセットを配賦する。
この循環を強めることで、流動性をしっかり確保しながら、収益性を高めていきます。

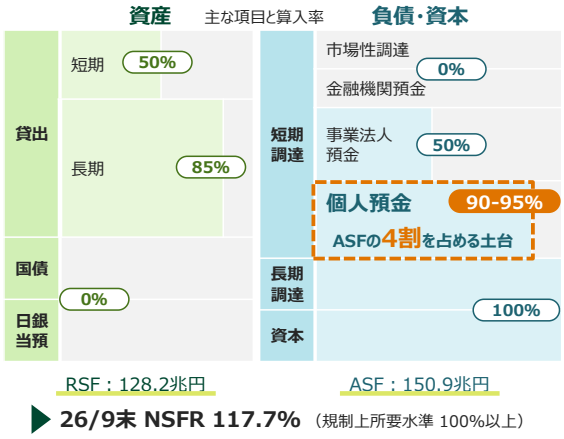
33ページまでお進みください。

（参考）NSFRを支える当社の預金基盤

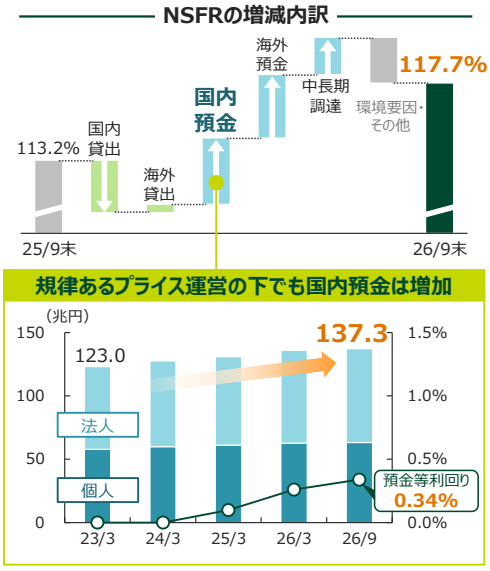
NSFRの計算上高く評価される個人預金を中心に国内の預金獲得力に強み
国内の旺盛な資金需要を力強くサポートしつつも、規律あるプライス運営で預金利回りは抑制

安定調達比率 Net Stable Funding Ratio ＝ 利用可能安定調達額（ASF） / 所要安定調達額（RSF）

保有資産の流動性に応じた安定的な調達を求める規制



▶ **26/9末 NSFR 117.7%**（規制上所要水準 100%以上）



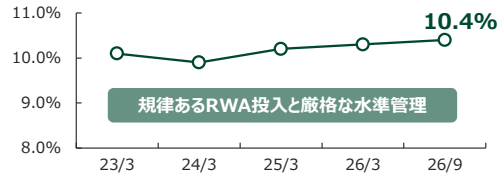
Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

成長を支えるレジリエントな経営

安定的な資本運営と選別的なリスクテイクを継続するとともに、コスト構造改革を加速
不確実性の高い環境下でも持続的な成長を実現するため、経営のレジリエンスを一段と強化

▶ 資本コントロール

CET1比率*1

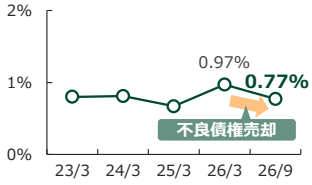


▶ クレジットコストコントロール

投資適格比率*2

総与信に対して
約7割

不良債権比率*3



▶ コストコントロール

経費率	25年度上期	26年度上期
	53.5%	**51.5%**

投入（億円）	26年度上期	中計目標
重点施策への投入等	▲250	▲2,000

削減	△130	△2,000
AI・デジタル活用による業務効率化	△90	△630
店舗・組織の合理化を通じたコスト見直し	△30	△470
海外における人員コントロールや業務集約	△10	△900

削減施策の加速

- インドGCC*4への業務集約
- 米州人員・人件費の適正化

*1 バーゼルIII最終化、除くOCI *2 BC連結、内部管理ベース *3 FG連結 *4 Global Capability Center

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

続いて、成長を支える経営のレジリエンスです。
足元、業績は好調ですが、事業環境の不確実性も継続しています。
業績に甘んじて油断することなく、
資本、クレジット、経費の各項目で経営基盤の強化を進めていきます。

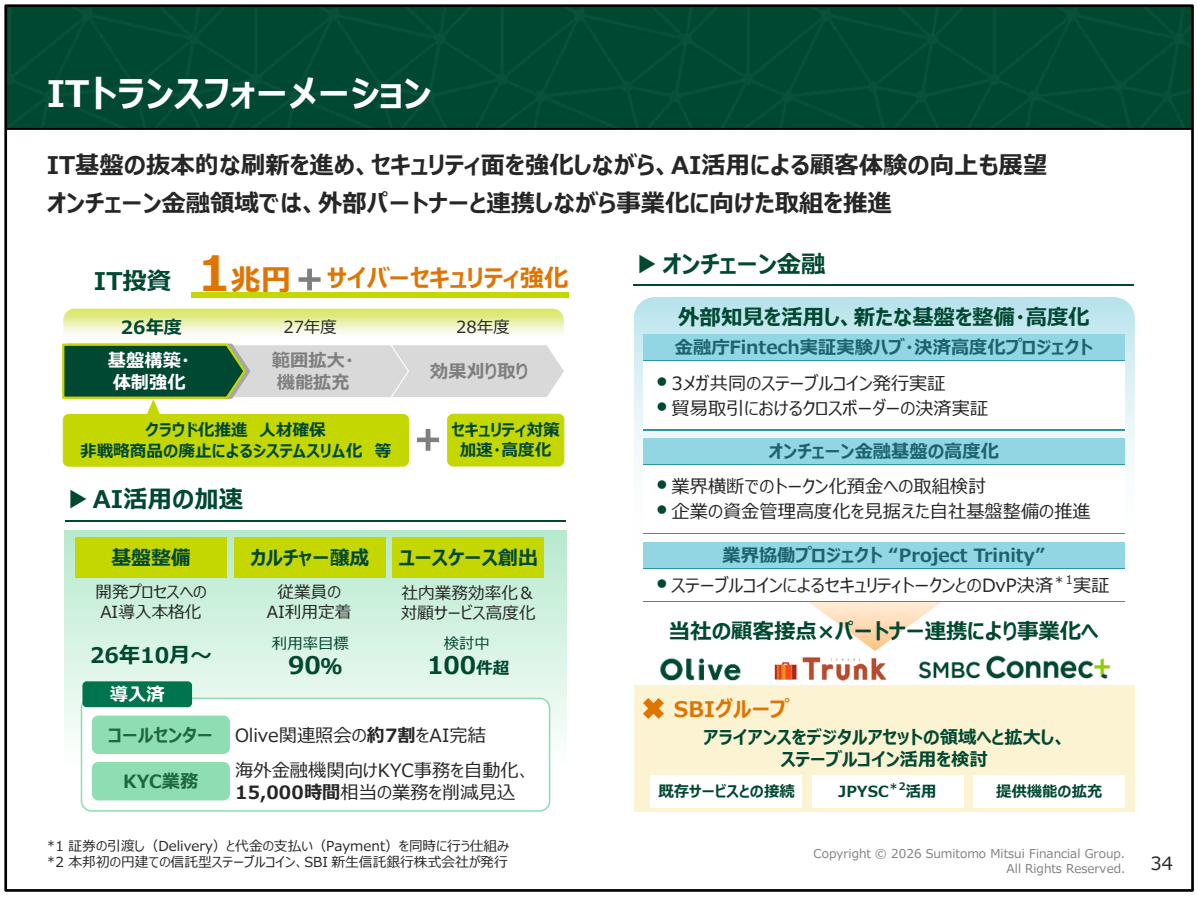
資本面では、CET1比率をしっかりとコントロールし、
成長分野への資本投入と健全性の確保を両立します。
ボラティリティの少ない、安定的な資本運営は当社の強みであると考えています。

クレジットについても、選別的なリスクテイクとクレジットコストのコントロールを継続しています。
グループ全体のエクスポージャーに占める投資適格先の比率は7割超、
不良債権比率は0.77%となっています。
この上期には昨年度劣化した不良債権の売却も進め、
アセットクオリティの向上に努めています。

経費面では、上期の経費率は51.5%となり、昨年度上期の53.5%から改善しました。今後も、成長に必要な経費投入はしっかりと行いつつ、
AI・デジタルの活用による業務効率化、店舗・組織の合理化を進めていきます。
さらに、経費削減のペースを加速するため、特に海外での施策を強化します。
インドのGCCへの業務集約や、米州における人員・人件費の適正化を進めていきます。

こうした規律ある運営を通じて、不確実性の高い環境でも持続的に成長できる、
レジリエントな経営基盤を築いていきます。

次のページにお進みください。



成長戦略と経営基盤を支えるIT基盤の刷新も、継続して進めます。

3カ年で1兆円の投資計画に加え、重要性がますます高まるサイバーセキュリティについても、必要な投資を惜しまず、強固な事業基盤を構築していきます。

足元では、AIの進化なども背景に、サイバー攻撃の高度化・高速化が急速に進んでおり、脅威のステージが一段変化していると認識しています。
当社グループにおいても、複数のサイバー攻撃による被害が発生しており、
お客さまをはじめ関係者の皆さまにご迷惑とご心配をおかけしております。
この状況を重く受け止め、従来の取組をさらに加速・高度化し、
セキュリティ対策を抜本的に強化しています。

具体的には、基本的なセキュリティ対策を改めて徹底するとともに、
脆弱性等への対応を大幅に前倒ししています。
さらに、AIを活用した脆弱性診断の拡大、多層的な防御や監視・検知の高度化など、
攻撃の高度化・高速化を前提とした対策を加速しています。
あわせて、グループ全体のガバナンスや有事対応態勢についても強化しています。
サイバーセキュリティを経営上の最重要課題の一つと位置付け、
必要な人材・資金をしっかりと投入し、グループ・グローバルで
セキュリティレベルの向上を図ってまいります。

一方、AIはサイバー攻撃の高度化をもたらすだけでなく、
当社の成長や競争力向上に向けて積極的に活用していくべき重要な技術でもあります。
AIの利活用についても加速し、社内業務の効率化や高度化にとどまらず、
顧客体験の向上、さらには新たなビジネスの創出を目指していきます。

次世代の金融インフラを支えるオンチェーン技術については、
これまで各機関や企業と連携しながら、実用化・事業化に必要な
基盤や制度について研究を進めてきました。
今後はさらに一歩踏み込み、当社のビジネスにおける具体的な活用の可能性について、
パートナーとの連携を通じて検討していきます。

次のページにお進みください。

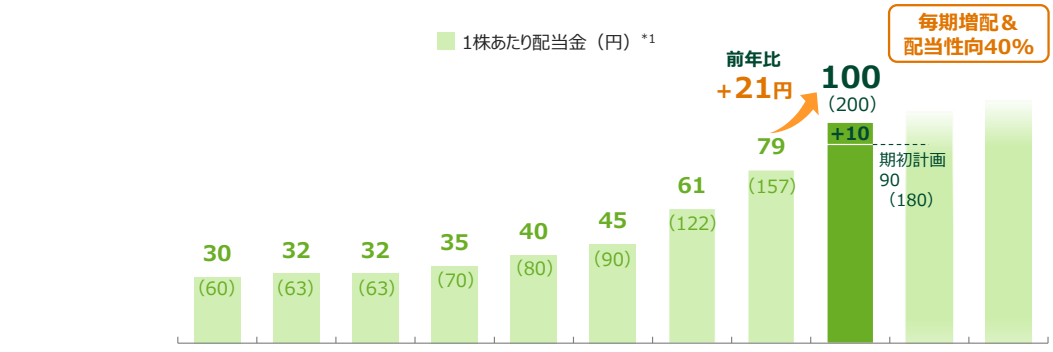
Globally connected. Rooted in Japan.
Your most trusted partner.

資本政策

最後に、資本政策についてご説明します。
次のページにお進みください。

株主還元の強化

業績予想の上方修正と配当性向目標に基づき、1株あたり配当予想を100円（分割後水準）に引上げ
自己株取得は、資本配賦バランスを踏まえて追加で2,200億円実施し、通期では過去最大額を更新



	FY18	19	20	21	22	23	24	25	26E	27E	28E
自己株取得（億円）	700	1,000	-	-	1,387	2,113	2,500	2,500	過去最大 4,000	機動的に実施	
【参考】総還元性向（%）	44	51	51	41	58	59	61	54	61		

*1 2024年10月1日付で実施した株式分割（3分割）及び、2026年10月1日付で実施した株式分割（2分割）を踏まえ、過去に遡り調整した金額（小数点以下は四捨五入）。カッコ内は2026年10月1日の分割前の1株あたり配当金

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

まず、株主還元です。

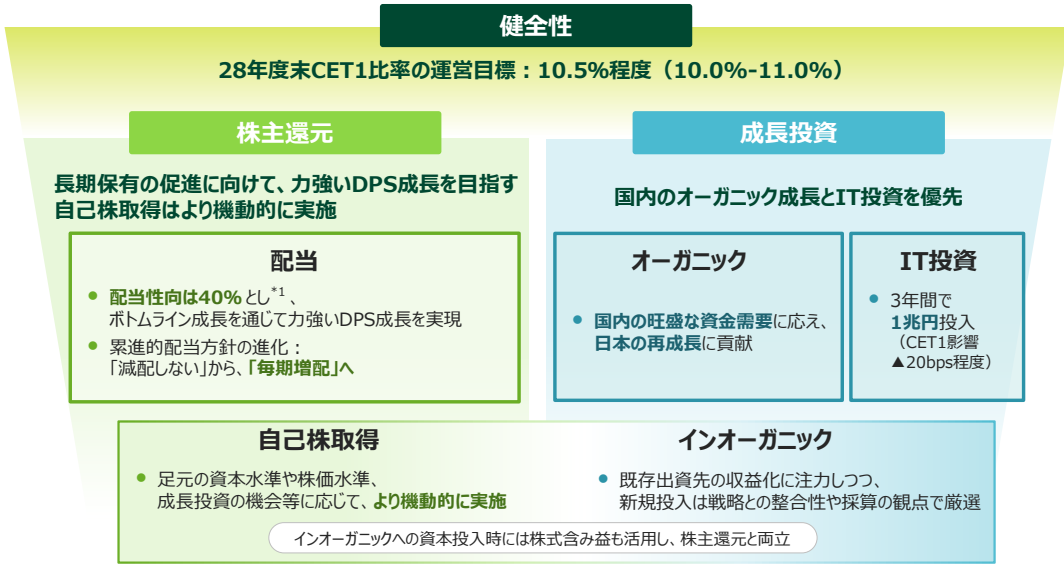
配当は、通期の業績予想を上方修正したことに伴い、分割後水準で大台となる
1株当たり100円と、前年対比で21円、また期初対比でも10円引き上げました。
これはボトムライン利益1兆9,000億円に対して、配当性向40%となる水準です。

自己株取得については、今回新たに2,200億円の取得枠を設定しました。
5月には、当時の不透明な情勢を考慮して1,800億円の取得を公表しましたが、
今回は、その後の業績の進捗、資本・株価の状況等を踏まえて、
追加取得を決定したものです。
これにより、通期での取得枠は合計4,000億円となり、過去最大を更新します。

次のページにお進みください。

キャピタルアロケーションの考え方

健全性確保、株主還元、成長投資にバランスよく資本配賦する基本方針は不変
今中計では、オーガニック成長とIT投資にも注力しつつ、株主還元のさらなる強化を図る



*1 ボトムラインの一時的な上振れ要因は、利益の性質に応じてキャピタルアロケーションを検討

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

資本政策については、引き続き健全性の確保を前提に、
成長投資、株主還元のバランスを重視した運営を行います。

CET1比率の運営目線は10.5%程度としていますが、
今年度末もターゲットレンジ内で運営できる見通しです。

成長投資については、オーガニックでは、
国内の旺盛かつ高採算な資金需要に引き続きしっかり応えるとともに、
IT投資にも一定の資本を配賦していきます。

インオーガニック投資では、既存出資先の収益化に注力します。
一方、新規投入は、戦略との整合性や採算性を十分に見極め、厳選することとし、
株式の含み益も活用しながら、資本への影響は抑制したいと考えています。

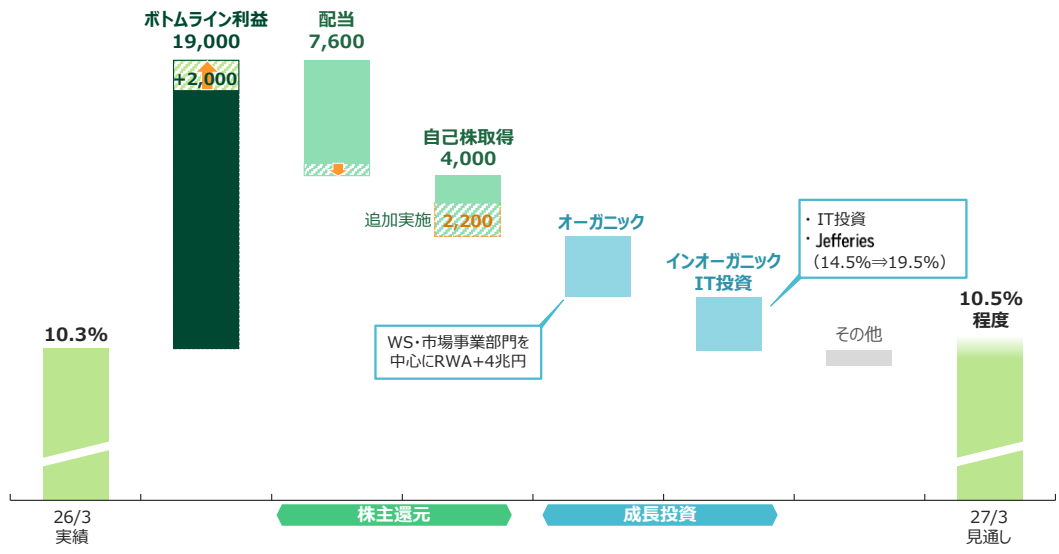
株主還元については、長期保有の価値を実感していただけるよう、
引き続き、配当を基本に、利益成長を通じた力強く着実なDPS成長を目指します。
そのうえで、資本水準、株価水準、成長投資機会等を見極めながら、
ROTEやEPSの向上に向けて、より積極的に自己株取得を実施していく方針です。

41ページまでお進みください。

（参考）キャピタルアロケーション

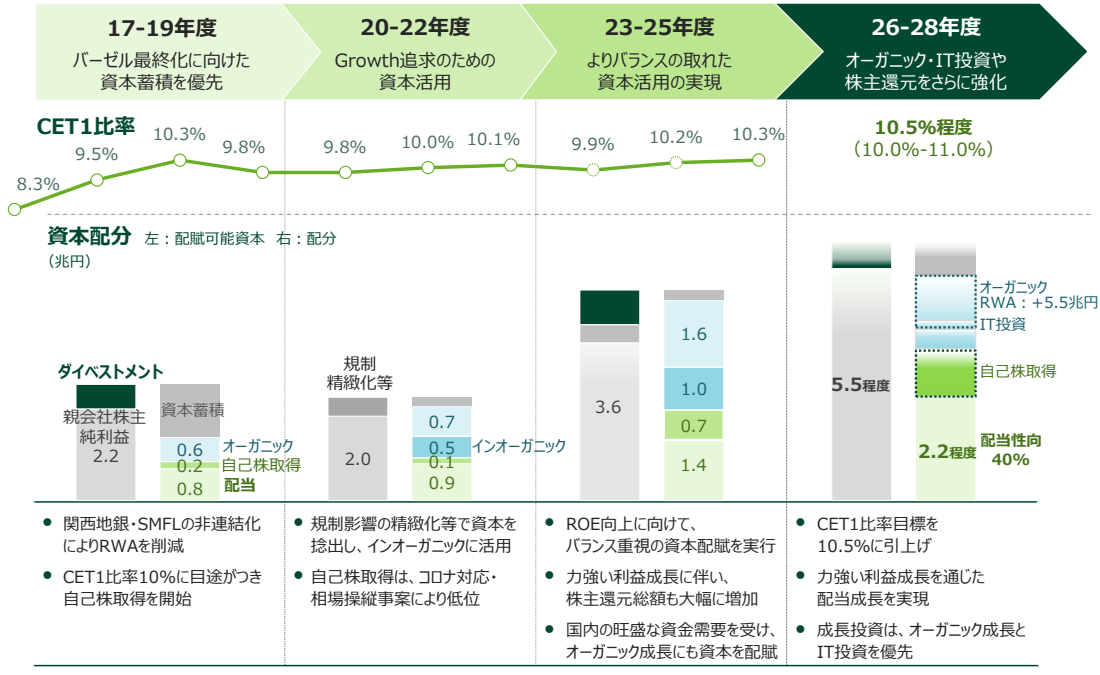
▶ 26年度見通し

（億円）



Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

（再掲）3カ年のキャピタルアロケーション



- 関西地銀・SMFLの非連結化によりRWAを削減
- CET1比率10%に目途がつき自己株取得を開始

- 規制影響の精緻化等で資本を捻出し、インオーガニックに活用
- 自己株取得は、コロナ対応・相場操縦事案により低位

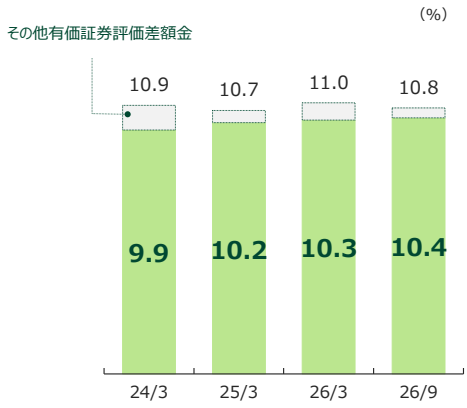
- ROE向上に向けて、バランス重視の資本配賦を実行
- 力強い利益成長に伴い、株主還元総額も大幅に増加
- 国内の旺盛な資金需要を受け、オーガニック成長にも資本を配賦

- CET1比率目標を10.5%に引上げ
- 力強い利益成長を通じた配当成長を実現
- 成長投資は、オーガニック成長とIT投資を優先

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

（参考）CET1比率

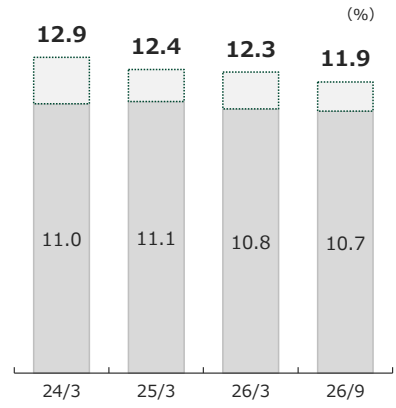
▶ 財務目標：バーゼルⅢ最終化・除くOCI



（兆円）

	24/3	25/3	26/3	26/9
CET1資本	10.2	10.4	10.9	10.9
リスクアセット	102.3	101.6	105.8	105.1

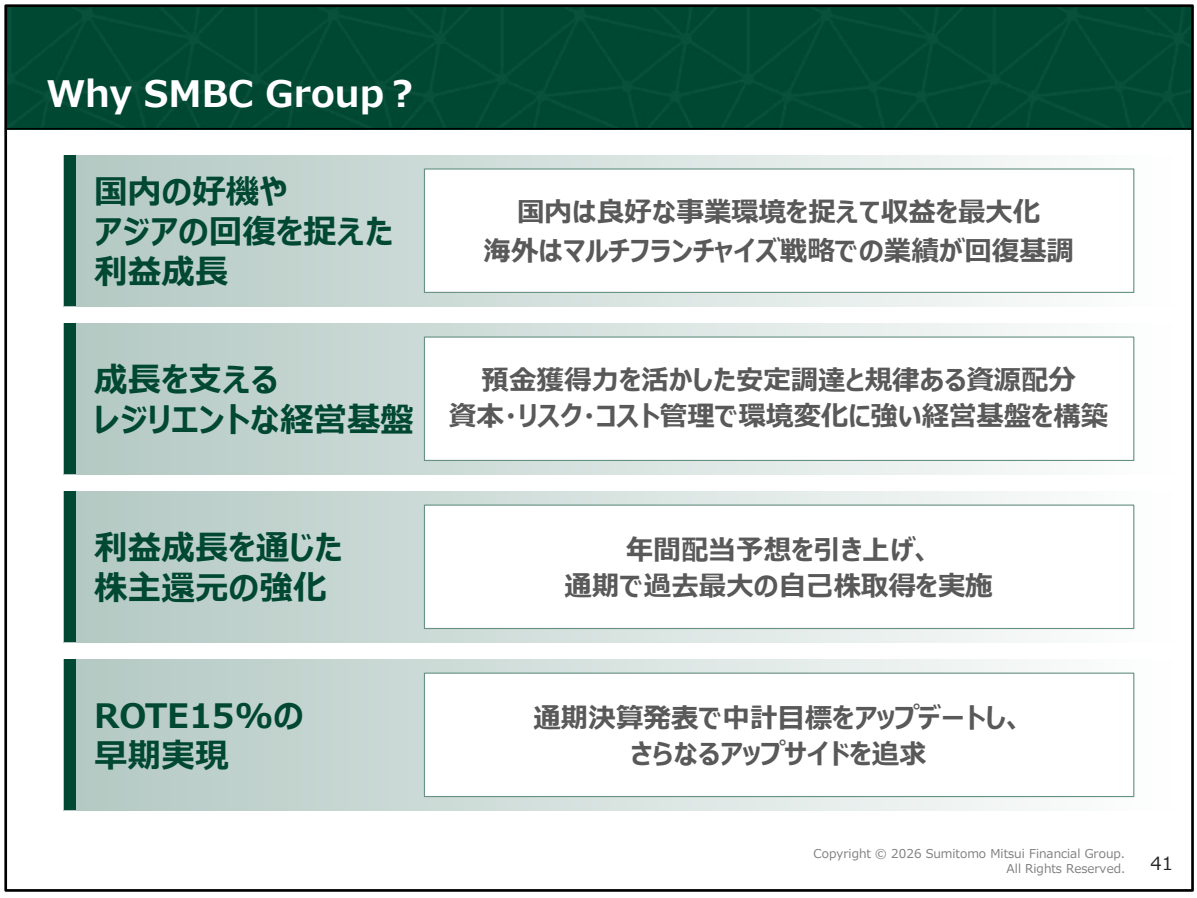
▶ 現行規制基準



（兆円）

	24/3	25/3	26/3	26/9
CET1資本	12.0	11.6	12.5	12.2
リスクアセット	92.8	93.1	101.1	102.0

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.



最後に、本日特に強調したいことを４点をお伝えします。

まずは、国内の好機やアジアの回復を捉えた利益成長です。
国内では、良好な事業環境の下、
差別化された戦略の遂行を通じて、
競争上のポジションの向上と収益の拡大をさらに加速させていきます。
海外のマルチフランチャイズ戦略では、これまでの施策が奏功し、
低迷していた利益が、ようやく回復してきました。
この流れを一気に加速し、収益成長の柱としていきます。

第二に、成長を支えるレジリエントな経営基盤です。
国内を中心とした強い資金需要への対応には、資本に加えて流動性が重要です。
強みである預金獲得力を活かしてニーズに応え、差別化を図っていきます。

第三に、利益成長を通じた株主還元の強化です。
利益成長に伴い配当予想を引き上げ、自己株取得は今年度過去最大額を実施します。
今後も、投資家の皆さまのご期待に応えていきたいと考えています。

最後に、現在の強い業績モメンタムを加速させ、さらなる高みを目指していきます。
来年5月の通期決算発表で中期経営計画の目標をアップデートし、
中長期的な目標であるROTE15%も早期に実現したいと考えています。
こうしたROTEの向上は、当社の株価向上にもつながっていくと信じています。

中期経営計画は一度策定したら不変のものではありません。
開始から半年の間にも、我々を取り巻く環境は刻々と変化しています。
変化に応じて戦略を機動的に見直し、変化の中でさらなる成長機会を捉える。
同時に、規律ある運営で成長の土台となる経営基盤をより強固にする。
この両輪で、SMBCグループは、さらに高いステージへ進んでまいります。

投資家・アナリストの皆さまには、我々の今後の取組みにご期待いただき、
引き続きのご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私からの説明は以上です。本日はありがとうございました。

Appendix

グループ概要　①組織図*1

連結子会社　持分法適用関連会社

三井住友フィナンシャルグループ

連結総資産　326兆円

格付

Moody's	S&P	Fitch	R&I	JCR
A1/P-1	A-/ -	A-/F1	AA-/ -	AA/ -

銀行

三井住友銀行

Moody's	S&P	Fitch
A1	A	A

【15%】 VPBank

【24.9%】 YES BANK

SMBC信託銀行

【91%】 PT Bank SMBC Indonesia Tbk

【24.5%】 Rizal Commercial Banking Corporation

コンシューマーファイナンス

三井住友カード

SMBC コンシューマーファイナンス

【49%】 FE Credit

SMFG India Credit Company

リース

【50%】 三井住友 ファイナンス&リース

【SMBC 32%、SMFL 68%】 SMBC Aviation Capital

証券

SMBC日興証券

その他事業

日本総合研究所

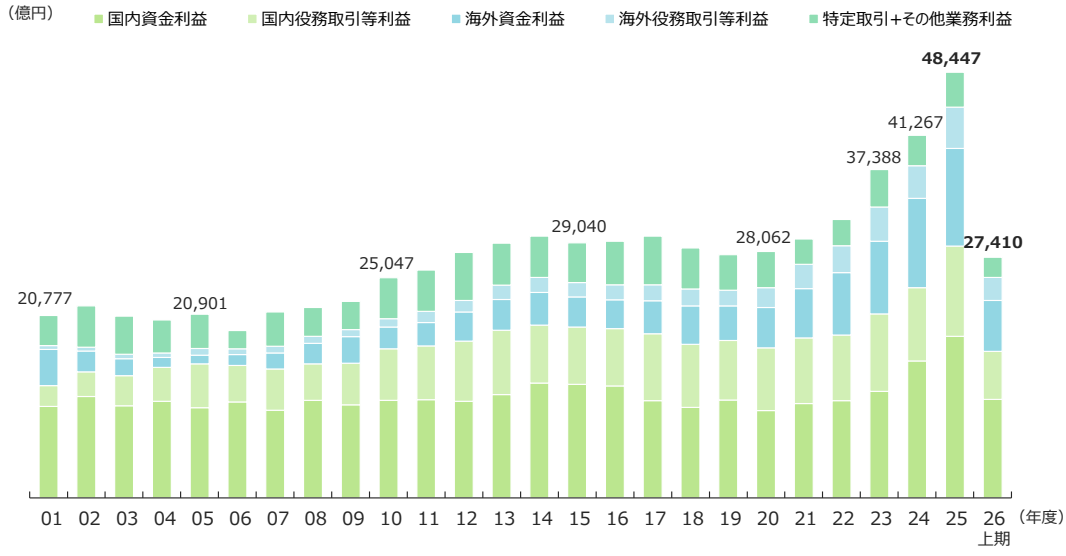
【50.1%】 三井住友DS アセットマネジメント

*1 26/10末現在

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

グループ概要　②連結粗利益の推移*1

国内の低金利環境が長期化する中、収益構造の改善を進め、国内非金利収益や海外ビジネスを着実に拡大
足元では、マイナス金利解除に伴う国内資金利益の増加も加わり、全体として大幅な増益を実現

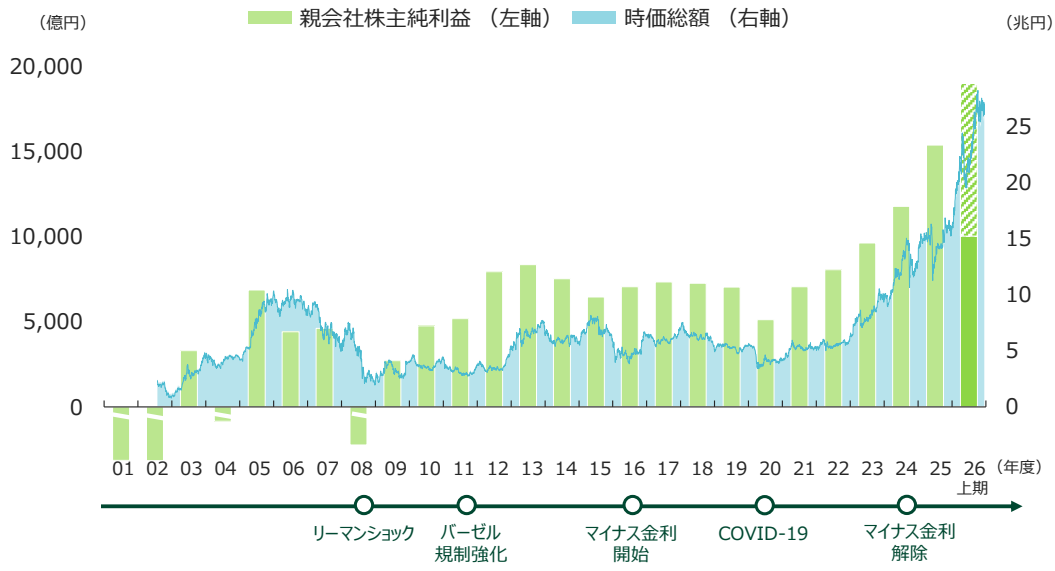


*1 国内・海外の区分は本店所在地にて判断

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

グループ概要　③親会社株主純利益／時価総額の推移

グループ発足直後は不良債権や公的資金等の課題を抱え、厳しい事業環境からのスタート
構造改革や将来の成長に向けた取組に加え、業務環境の追い風もあり足元では利益・時価総額ともに拡大



Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

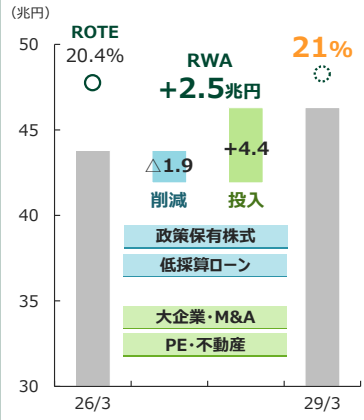
（再掲）事業部門別計画*1 –RWA–

国内外で低採算アセットを削減し、国内では旺盛な資金需要へ対応
海外では入替を通じてRWAをコントロールし、収益性の向上を図る

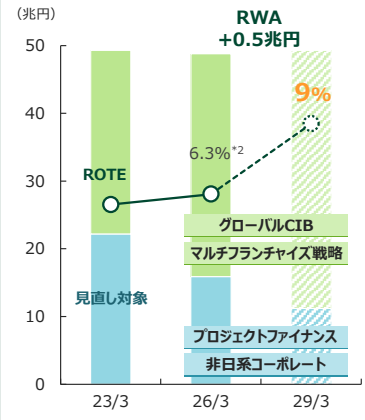
RWA +5.5兆円

投入	+14.5兆円	削減	△9.0兆円

WS事業部門



GB事業部門



RT事業部門

RWA +1.0兆円
クレジットカード／CF
有担保ローン

ROTE 25年度 14.8% 〉 28年度 24%

GM事業部門

RWA +1.8兆円
S&T

ROTE 25年度 21.1% 〉 28年度 16%～

*1 25年度のROTEは28年度基準の内部管理ベース（金利・為替・再編影響等を控除）
*2 低採算アセットの売却損、OTO/SOF不良債権一括処理分を調整

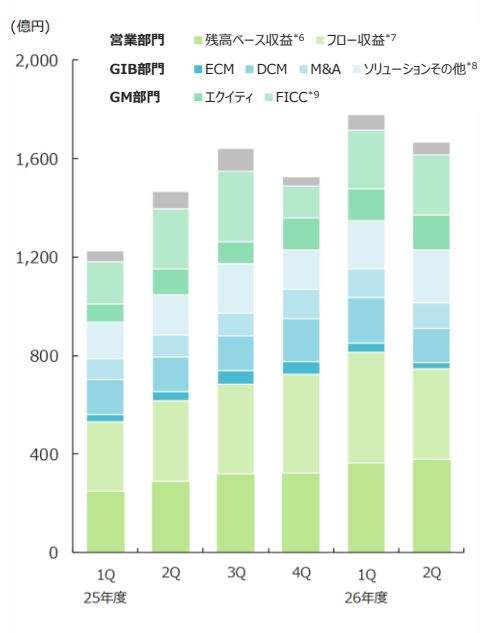
Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

主なグループ会社　①SMBC日興*1,2

▶業績

(億円)	25年度	26年度上期	前年同期比
純営業収益	5,864	3,447	+752
販売費・一般管理費	▲4,707	▲2,588	▲366
営業利益	1,157	858	+385
うち営業部門	684	516	+254
GIB部門*3	481	296	+93
GM部門*4	▲147	▲29	+35
経常利益	1,305	928	+332
当期純利益	1,283	643	▲99
預り資産残高*5 (兆円)	91.1	99.6	

▶純営業収益



*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsなどの利益を含む内部管理ベース
*2 2025年度より海外におけるデリバティブ事業の集計定義を変更、遡及反映を実施
*3 グローバル・インベストメント・バンキング部門　*4 グローバル・マーケッツ部門　*5 SMBC日興単体
*6 投資信託・保険の代行手数料、FW報酬等　*7 株式委託手数料等
*8 バランスシートやデリバティブを活用したソリューションビジネス等　*9 Fixed Income, Currency and Commodities

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

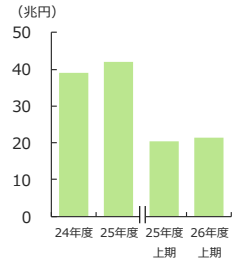
主なグループ会社　②SMCC（SMBCCFを含む）

▶業績

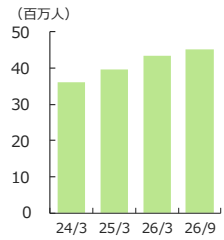
（億円）	25年度	26年度 上期	前年 同期比
営業収益	10,347	5,472	+446
うち買物手数料	2,851	1,582	+210
ファイナンス	3,507	1,869	+151
うちSMBCCF	1,693	917	+92
信販・収納代行	831	435	+18
信用保証収益	874	433	▲3
営業費用	▲8,979	▲5,030	▲538
うち貸倒費用	▲1,341	▲861	▲120
うちSMBCCF	▲720	▲532	▲108
利息返還費用	0	0	-
債務保証費用	▲87	▲33	△18
経常利益	1,365	464	▲74
うち営業外収益	65	45	+1
営業外費用	▲68	▲23	△17
親会社株主純利益	1,057	344	▲180

不良債権比率*1	10.53%	10.67%
利息返還損失引当年数*1,2	13.0年	14.6年

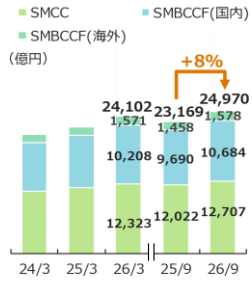
▶買物取扱高



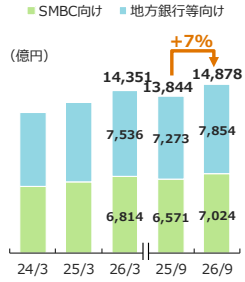
▶会員数



▶ファイナンス残高*3



▶保証残高*1



*1 SMBCCFのみ　*2 引当年数＝利息返還損失引当額／当該年度の利息返還額　*3 SMBCモビット再編影響を遡及反映

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

主なグループ会社　③SMBCAC

▶業績

（百万米ドル）	25年度	26年度上期	前年同期比
総収入[*1]	2,360	1,132	▲173
うちリース収入	1,941	985	▲19
減損・引当[*2]	▲142	▲24	▲15
当期純利益	724	327	▲160
特殊要因影響除く[*3]	588	327	▲25
航空機資産[*4]	23,779	27,819	+4,929
純資産	6,442	7,565	+1,093
ROE[*3]	9.3%	9.3%	▲2.4%

▶SMBCACの強み

業界屈指の規模と航空機の供給力[*5]

保有・管理・発注機材　1,850+

発注機材数　602

低機齢で流動性と需要に優れたポートフォリオ[*5]

平均機齢　5.2年

新技術機[*6]　84%

ナローボディ　89%

潤沢な流動性と高い信用力[*5]

未引出借入枠　15.8bn

格付（業界No.1）

S&P　A-

Fitch　BBB+

*1 ロシア向け機材の保険金受領を含む（25年度:159百万ドル）
*2 保証金等ネット前のグロス表記　*3 ロシア向け機材の保険金受領を除く　*4 PDP（航空機製造前払金）を含む
*5 26/9末時点　*6 Neo/MAX/A350/B787

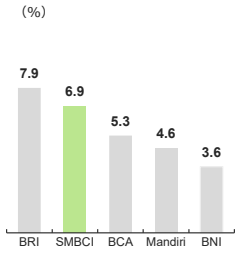
Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

主なグループ会社　④SMBC Indonesia

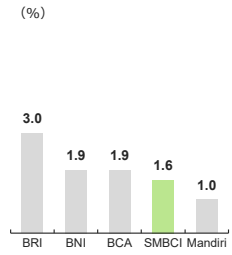
▶ 業績*1

（億円）	2023年	2024年	2025年	2026年 1-6月
業務粗利益	1,278	1,765	1,729	838
経費	▲678	▲946	▲917	▲463
与信関係費用	▲278	▲416	▲786	▲207
純利益	222	276	47	128
ROE	6.3%	6.8%	1.1%	6.3%
貸出金	14,247	17,582	17,241	16,859
預金	9,954	11,889	12,183	11,517
総資産	18,338	23,627	22,864	22,336

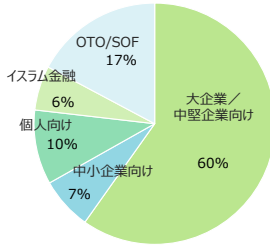
預貸金利鞘*2



不良債権比率*2



▶ 貸出金構成（26/6）



▶ 取組方針

1 預金獲得推進による調達コスト引き下げ

- 富裕層ビジネス強化と決済起点のメイン口座獲得

2 法人ビジネスの商品拡充・採算性向上

- トランザクションバンキング等のフィービジネスの強化

3 オートローン事業の再建

- 25年度に不良債権を処理済、健全なアセットポートフォリオを構築

*1 各期末レートで換算
23/12末：0.0092円/IDR、24/12末：0.0098円/IDR 、25/12末：0.0093円/IDR、26/6末：0.0091円/IDR
*2 各社公表データ（26/3実績、26/6実績）にもとづく

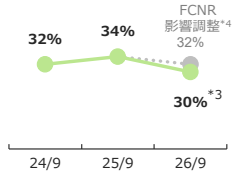
Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

主なグループ会社　⑤YES BANK

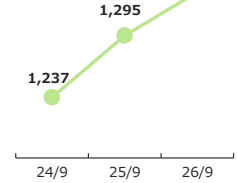
▶ 業績*1

（億円）	23年度	24年度	25年度	26年度上期
業務粗利益	2,431	2,639	2,846	1,546
経費	▲1,812	▲1,884	▲1,907	▲990
与信関係費用	▲387	▲190	▲154	▲117
純利益	233	428	594	354
ROE*2	3.0%	5.2%	7.0%	8.2%*3
貸出金	41,232	43,071	46,212	50,760
預金	48,188	49,774	53,906	58,057
総資産	73,551	74,220	79,464	84,453

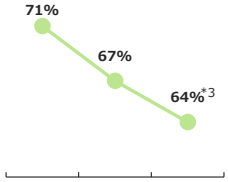
流動性預金比率*2



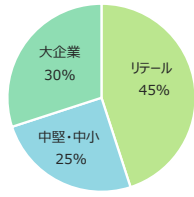
支店数*2



経費率*2



貸出金構成（26/9）



▶ 取組方針

1 成長の加速と収益性の向上

- SMBCとの連携による日系・多国籍企業取引の拡大
- 流動性預金の拡充による調達コストの低減

2 リテールビジネスの強化

- リテール基盤の拡大を通じた個人顧客フローの取込み
- セグメント・プロダクトミックスの最適化によるROAの向上

3 デジタルバンキングにおけるリーダーシップ

- デジタル・AIへの投資継続による競争優位性維持

*1 各期末レートで換算　24/3末：1.81円/INR、25/3末：1.75円/INR、26/3末：1.69円/INR、26/9末：1.64円/INR
*2 YES BANK単体　*3 開示資料をもとに計算
*4 RBIの特別為替スワップ制度を活用して調達した、非居住インド人向け外貨建て定期預金を除く

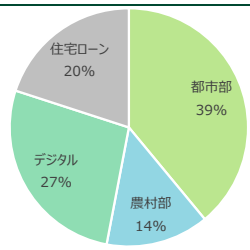
Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

主なグループ会社　⑥SMICC

▶ 業績*1

（億円）	23年度	24年度	25年度	26年度上期
業務粗利益	913	1,138	1,382	722
経費	▲517	▲714	▲836	▲415
与信関係費用	▲232	▲317	▲433	▲227
純利益	121	78	84	60
ROE	12.2%	5.4%	4.7%	6.0%
貸出金	8,225	9,973	11,044	10,733
総資産	8,776	10,889	11,985	12,010

▶ 貸出金構成（26/9）



▶ 取組方針

① デジタライゼーション

- プロセスのデジタル化によるスピード向上
- 業容拡大に向けた体制構築

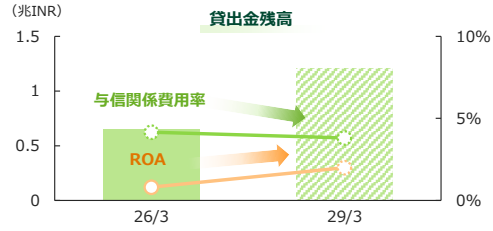
② 経費削減

- 非効率な社内構造・業務プロセスの改善
- IT投資による効率化

	（25年度）		（28年度）
経費率	60.5%	›››	50%以下へ

③ クレジットコントロール

- 与信基準の見直しによるポートフォリオの健全性改善
- 人員配置最適化と債権管理体制強化による回収力向上



*1 各期末レートで換算　24/3末：1.81円/INR、25/3末：1.75円/INR、26/3末：1.69円/INR、26/9末：1.64円/INR

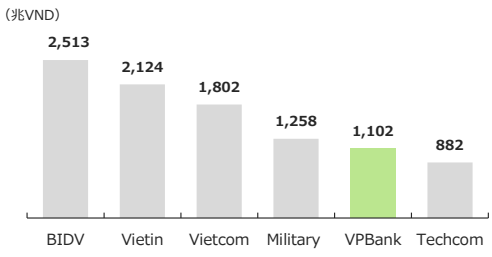
Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

主なグループ会社　⑦VPBank

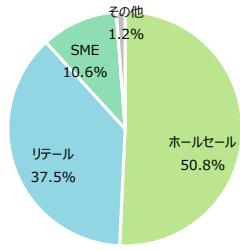
▶ VPBank 業績*1

（億円）	2023年	2024年	2025年	2026年 1-9月
業務粗利益	2,885	3,860	4,479	3,994
経費	▲809	▲889	▲1,118	▲838
与信関係費用	▲1,450	▲1,730	▲1,524	▲1,331
純利益	493	991	1,461	1,462
ROE	9.3%	11.5%	15.9%	17.5%
貸出金	34,768	44,019	57,685	75,142
預金	25,657	30,111	37,683	48,376
総資産	47,419	57,279	75,609	98,258

貸出金*2



▶ 貸出金構成（単体）



▶ 取組方針

1 預金獲得推進による調達コストコントロール

- 外部パートナーを活用したチャネル多様化による個人預金獲得推進

2 貸出成長・採算性向上の両立

- リテール・SME向け貸出の拡大を推進しつつ、回収強化・リスク管理高度化により与信費用を抑制

3 非金利収益ビジネスの強化

- 証券・保険・ファンド等のグループ連携を通じたフィー収入の拡大

*1 各期末レートで換算
23/12末：0.0058円/VND、24/12末：0.0062円/VND、25/12末：0.0060円/VND、26/9末：0.0061円/VND
*2 各社公表データ（26/9実績）にもとづく

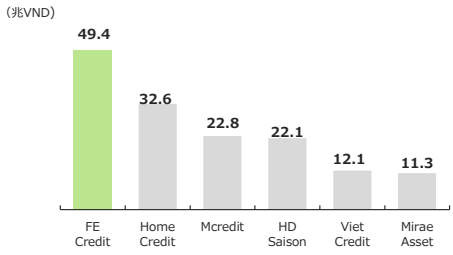
Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

主なグループ会社　⑧FE Credit

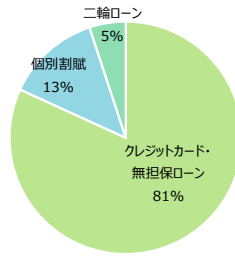
▶ FE Credit 業績*1

（億円）	2023年	2024年	2025年	2026年 1-9月
業務粗利益	770	982	987	706
経費	▲266	▲243	▲238	▲170
与信関係費用	▲719	▲708	▲712	▲517
純利益	▲172	25	29	19
ROE	▲28.9%	3.9%	4.5%	2.1%
貸出金	3,266	3,850	3,860	4,399
総資産	3,658	4,194	4,210	5,050

貸出金*2,3



▶ 貸出金構成*3



▶ 取組方針

① トップライン成長の追求

- オンライン決済業者との提携を通じた新規顧客の獲得
- デジタルプラットフォームを通じた既存顧客への提案強化

② 与信ポートフォリオの改善

- デジタルチャネル・ツールを活用した初期延滞率の改善
- 人員配置の見直しと人材強化による回収力向上

*1 各期末レートで換算
23/12末：0.0058円/VND、24/12末：0.0062円/VND、25/12末：0.0060円/VND、26/9末：0.0061円/VND
*2 FiinGroupデータ（25/12実績）にもとづく　*3 シンジケートローンを除く

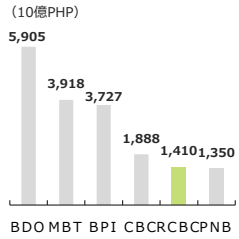
Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

主なグループ会社　⑨RCBC

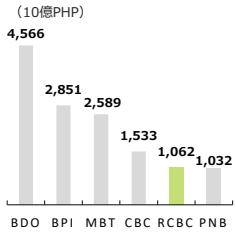
▶ 業績*1

（億円）	2023年	2024年	2025年	2026年 1-6月
業務粗利益	1,279	1,458	1,683	902
経費	▲758	▲868	▲932	▲484
与信関係費用	▲177	▲235	▲399	▲289
純利益	313	260	281	109
ROE	9.5%	6.0%	6.7%	5.5%
貸出金	16,638	20,270	21,371	21,816
預金	24,492	27,922	27,277	28,237
総資産	31,701	37,132	36,081	37,509

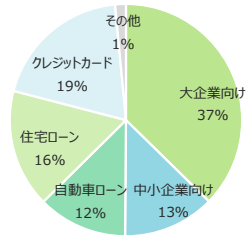
総資産*2



現預金*2



▶ 貸出金構成



▶ 取組方針

① 与信費用の抑制

- 与信基準厳格化、既存貸出先の管理強化

② 預金獲得推進による調達コスト引き下げ

- デジタルプラットフォーム強化による決済性預金の獲得

③ 高採算のリテール向け貸出強化

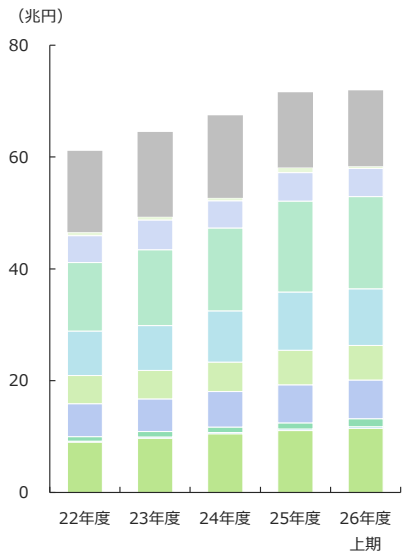
- 外部パートナーとの連携や顧客利便性向上による新規獲得推進

*1 各期末レートで換算
23/12末：2.56円/PHP、24/12末：2.73円/PHP、25/12末：2.66円/PHP、26/6末：2.66円/PHP
*2 Capital IQ、各社公表データにもとづく（26/6実績）

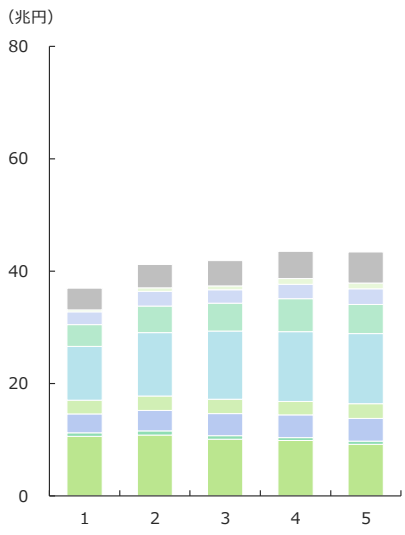
Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

業種別貸出金残高の推移

国内



海外

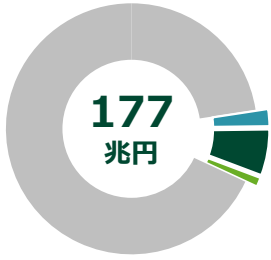




Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

データセンターPF／中東／ファンド関連エクスポージャー

SMBCグループ エクスポージャー合計*1



中東 3.9 兆円

金融機関・ソブリン向けが7割
投資適格比率 8割超

- うちカタール 1.3 兆円
- うちサウジアラビア 1.1 兆円
- うちUAE 0.9 兆円

ファンド関連 10.5 兆円*3

うちサブスクリプションファイナンス 7.2 兆円

- LP*4投資家の未払込出資を返済原資とする融資
- LP投資家は**年金基金・SWF等、高格付け先中心**

投資適格比率 9割超
不良債権なし

うちNAVファイナンス 2.1 兆円

- 投資ファンドが保有するポートフォリオの純資産価値（NAV）を拠り所とする融資

投資適格比率 9割
不良債権なし

うちBDC*5向けファイナンス 1.2 兆円

- BDCが保有する、主に非上場中堅・中小企業向けの貸付等を担保とする融資

すべてシニア／有担保
LTV 約20%*6
投資適格比率 8割超
不良債権なし

データセンターPF 2.1 兆円

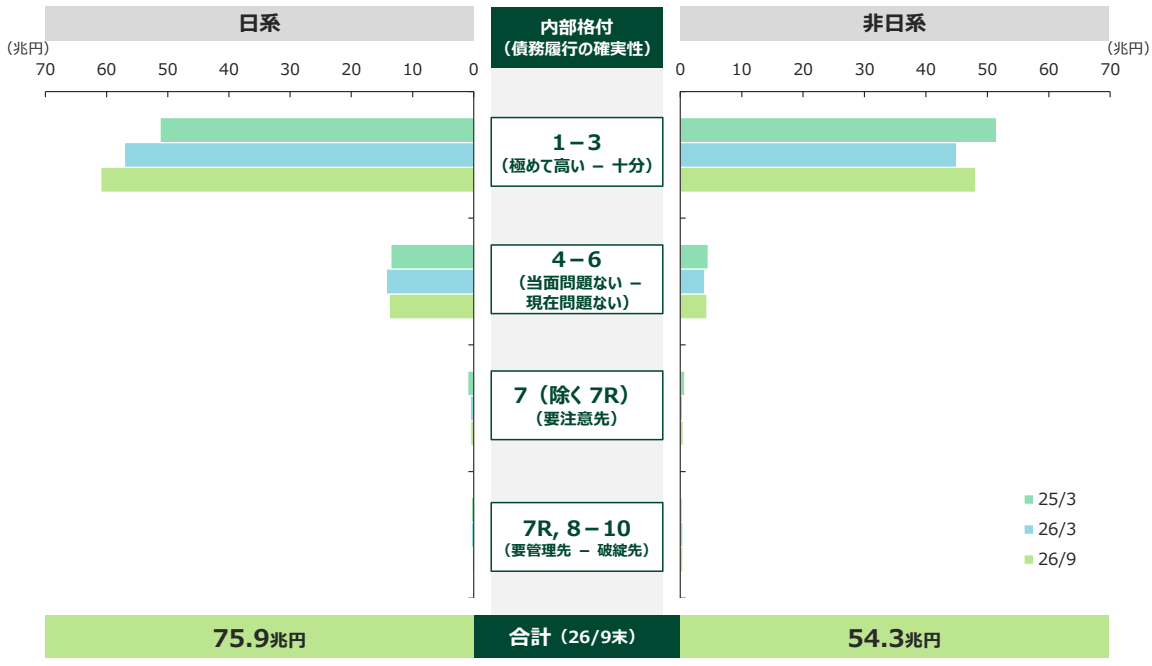
- マーケットの先駆者として培った知見・審査力や主要プレイヤーとの関係等を活かし、リスクを精査し案件を厳選
- 資金需要に対応しつつ、ディストリビューションでネットテイク抑制

2016年マーケット初の案件組成を主導して以降蓄積したノウハウ
アセット売却比率 9割*2
オフテイカーの8割が超大手クラウドサービス業者
オフテイカーごとの個社別ガイドラインも設定
9割が返済期日5年以内
不良債権なし

*1 BC連結、本社所在国・内部管理ベース *2 26年度上期における、米国のデータセンターPFアセット売却額/データセンターPF実行額
*3 サブスクリプションファイナンス、NAVファイナンス、BDC向けファイナンスの合計値 *4 Limited Partners
*5 Business Development Company *6 返済順位が当行と同等以上の借入額/ファンド保有資産の現在価値

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

内部格付別ポートフォリオ*1

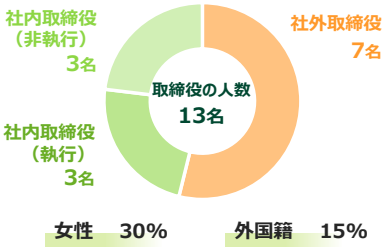


*1 内部管理ベース。グループ会社宛、日系先の個人・国・地方公共団体向けおよび案件格付管理先のエクスポージャーを除く。
エクスポージャー＝貸出金＋支払承諾＋外為＋私募債＋仮払金＋コミット未引出額＋デリバティブ等

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

コーポレートガバナンス体制の強化

▶ 取締役会の構成



	社外取締役	社内取締役（執行）	社内取締役（非執行）
指名委員会	● ● ●		●
報酬委員会	● ● ●	●	●
監査委員会	● ● ●		● ●
リスク委員会	● ●	●	
サステナビリティ委員会	● ●	●	●

● 法定3委員会　● 委員長

▶ 役員報酬制度

● 当社役員等（社外取締役･監査委員除く）

基本報酬	固定報酬	
賞与 ● 現金	年度業績連動型（0～150%）	
	財務指標	連結業務純益 親会社株主純利益
	非財務指標	サステナビリティ外部機関評価
	個人の職務遂行状況等	
株式報酬Ⅰ	中期業績連動型（0～150%）	
	財務	ROTE、連結粗利益
	株式	TSR（株主総利回り）
	非財務	社会的価値の創造
	調整項目	Build Next Core、 コンプライアンス･お客さま本位･リスク管理
	マテリアリティ ● KPIの達成状況 ● マテリアリティ解決に向けた取組評価 従業員 ● 人財ポリシースコアに関する取組評価	
株式報酬Ⅲ	役位昇進時	

株式報酬比率 25%～45%
業績連動報酬比率 40%～60%

● 社外取締役･監査委員

基本報酬	固定報酬
株式報酬Ⅱ	業績非連動

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

サステナビリティ経営の強化

▶ サステナビリティレポート2026　2026年10月発行

「戦略」「リスク管理」「ガバナンス」「指標と目標」の
4つの構成要素に沿ったSMBCグループの戦略の方向性を記載

詳しくはこちら



▶ Human Capital Story　2026年9月発行

SMBCグループとして初の人的資本レポートを作成
当社の人材戦略に関する施策や課題等を掲載

詳しくはこちら



▶ サステナビリティインデックスへの組入

FTSE JPX Blossom Japan Index

FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index

S&P/JPX Carbon Efficient Index

2026 CONSTITUENT MSCI JAPAN EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN) *1

2026 CONSTITUENT MSCI NIHONKABU ESG SELECT LEADERS INDEX *1

GPIF 選定インデックス

FTSE4Good

2026 CONSTITUENT MSCI JAPAN ESG SELECT LEADERS INDEX *1

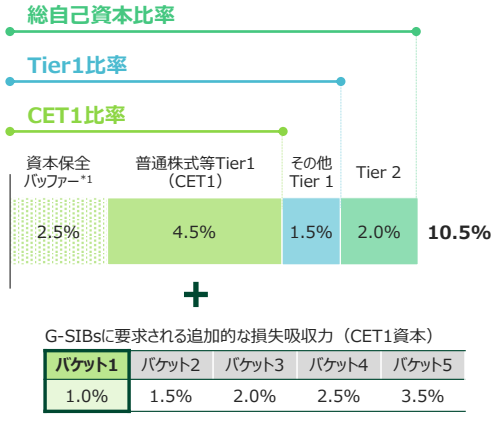
*1 The inclusion of Sumitomo Mitsui Financial Group, Inc in any MSCI Index, and the use of MSCI logos, trademarks, service marks or index names herein, do not constitute a sponsorship, endorsement or promotion of Sumitomo Mitsui Financial Group, Inc by MSCI or any of its affiliates. The MSCI Indexes are the exclusive property of MSCI. MSCI and the MSCI Index names and logos are trademarks or service marks of MSCI or its affiliates.

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

バーゼルⅢ最終化スケジュール（自己資本比率）

		24/3末	25/3末	26/3末	27/3末	28/3末	29/3末
リスクアセット（RWA）	信用リスクに係る標準的手法および内部格付手法の見直し	適用開始					
	CVAリスク・市場リスクの枠組みの見直し						
	オペレーショナルリスクの計測手法の見直し						
	アウトプット・フロアの導入	50%	55%	60%	65%	70%	72.5%

所要自己資本



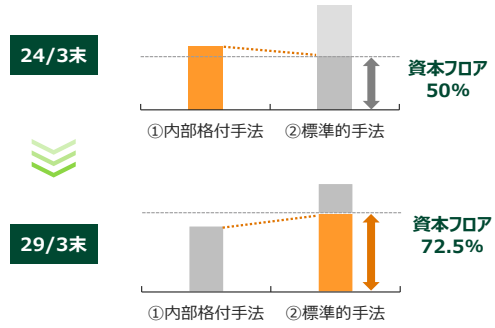
G-SIBsに要求される追加的な損失吸収力（CET1資本）

バケット1	バケット2	バケット3	バケット4	バケット5
1.0%	1.5%	2.0%	2.5%	3.5%

アウトプット・フロアの導入後のRWA計測

① 内部格付手法RWA
② 標準的手法RWA×資本フロア

大きい方を採用

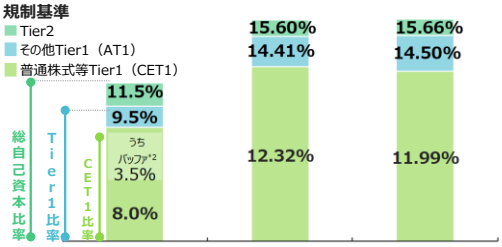


*1 カウンターシクリカルバッファー（CCyB）は省略

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

資本・リスクアセット

▶ 自己資本比率（規制基準）*1



所要水準（億円）	26/3末	26/9末
総自己資本	**157,836**	**159,882**
Tier1資本	145,756	148,035
うちCET1資本	124,642	122,355
Tier2資本	12,080	11,847
リスクアセット	**1,011,313**	**1,020,419**
バーゼルIII最終化基準		
CET1比率	11.0%	10.8%
除くOCI	**10.3%**	**10.4%**
CET1資本*3（兆円）	10.9	10.9
リスクアセット*3（兆円）	105.8	105.1

▶ その他の規制比率

	26/9末	所要水準
外部TLAC比率		
リスクアセットベース	**23.83%**	18.0%
レバレッジエクスポージャーベース	**9.68%**	7.10%
レバレッジ比率	**5.10%**	3.7%
LCR（26年2Q平均）	**137.4%**	100%
NSFR	**117.7%**	100%

▶ AT1・Tier2資本調達方針

Tier 2	1.2兆円（1.1%）（26/9末）	● AT1資本とのバケット合計である3.5%を目線に積上げを継続
AT1	2.6兆円（2.4%）（26/9末）	● 既にバケット1.5%を超過も、各種指標への寄与を鑑み、水準を維持

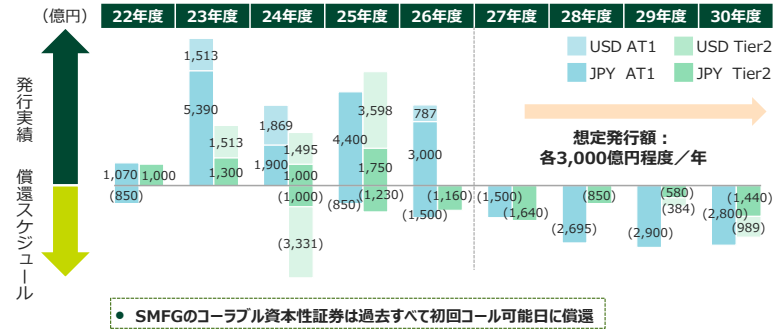
✓ 各比率はバーゼルIII最終化基準のRWA（105.1兆円）にて算出

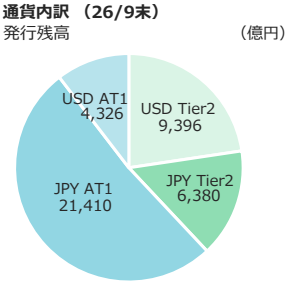
*1 バーゼルIII最終化は24/3末より段階適用開始。29/3末に完全実施される予定
*2 資本保全バッファー2.5%+G-SIBsバッファー1.0%。カウンターシクリカルバッファー（CCyB）は勘案せず
*3 バーゼルIII最終化・その他有価証券評価差額金を除く。RWAからも株式の含み益に係る評価差額金を除く

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

資本性証券の調達実績および調達計画

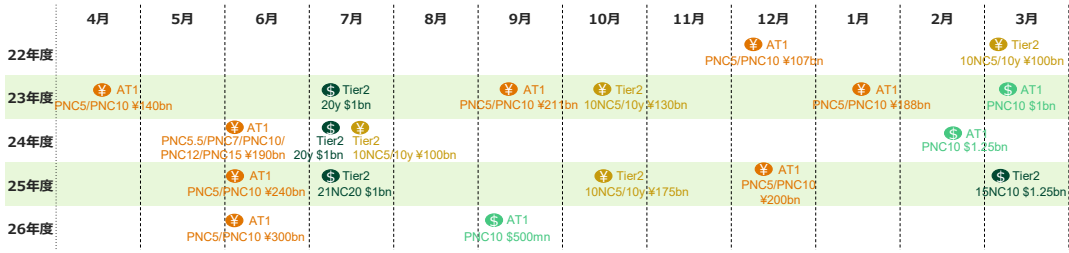
▶ 調達実績および償還スケジュール*1





- SMFGのコーラブル資本性証券は過去すべて初回コール可能日に償還

直近5年の発行カレンダー



*1 コーラブル証券は、初回コール可能日を満期と見なして集計

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

G-SIBsの格付　①コア銀行*1

(As of Nov 2, 2026)

Moody's	Moody's		S&P		Fitch		S&P Fitch
Aaa							AAA
Aa1					• Bank of New York Mellon	• State Street Bank & Trust	AA+
Aa2	• Bank of America • Bank of New York Mellon • JPMorgan Chase Bank	• State Street Bank & Trust • UBS • Wells Fargo Bank			• Bank of America • HSBC Bank • ING Bank	• JPMorgan Chase Bank • Morgan Stanley Bank • UBS	AA
Aa3	• Citibank	• Morgan Stanley Bank	• Bank of New York Mellon • JPMorgan Chase Bank	• Royal Bank of Canada • State Street Bank & Trust	• Barclays Bank • BNP Paribas • Citibank • Crédit Agricole	• Goldman Sachs Bank • Royal Bank of Canada • Standard Chartered • Toronto Dominion • Wells Fargo Bank	AA-
A1	SMBC • Agricultural Bank of China • Banco Santander • Bank of China • Barclays Bank • BNP Paribas • BPCE • China Construction Bank	• Crédit Agricole • Deutsche Bank • Goldman Sachs Bank • HSBC Bank • ICBC • ***Mizuho Bank*** • ***MUFG Bank*** • Royal Bank of Canada • Société Générale • Standard Chartered	• Banco Santander • Bank of America • Barclays Bank • BNP Paribas • BPCE • Citibank • Crédit Agricole • Goldman Sachs Bank • HSBC Bank	• ING Bank • Morgan Stanley Bank • Standard Chartered • Toronto Dominion • UBS • Wells Fargo Bank	• Banco Santander • BPCE	• Deutsche Bank • Société Générale	A+
A2	• BoCom • ING Bank	• Toronto Dominion	SMBC • Agricultural Bank of China • BoCom • Bank of China • China Construction Bank	• Deutsche Bank • ICBC • ***Mizuho Bank*** • ***MUFG Bank*** • Société Générale	SMBC • Agricultural Bank of China • Bank of China • BoCom	• China Construction Bank • ICBC • ***Mizuho Bank*** • ***MUFG Bank***	A
A3							A-
Baa1							BBB+
Baa2							BBB
Baa3							BBB-

*1 長期発行体格付（存在しない場合は、長期預金格付）（Moody's）、長期自国通貨建発行体格付（S&P）、長期発行体デフォルト格付（Fitch）

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group. All Rights Reserved.

G-SIBsの格付　②銀行持株*1

(As of Nov 2, 2026)

Moody's	Moody's		S&P		Fitch		S&P Fitch
Aaa							AAA
Aa1							AA+
Aa2							AA
Aa3	• Bank of New York Mellon	• State Street			• Bank of America • Bank of New York Mellon	• JPMorgan • State Street	AA-
A1	SMFG • Bank of America • JPMorgan	• ***Mizuho*** • Morgan Stanley • ***MUFG*** • Wells Fargo			• Groupe BPCE • HSBC • ING • Morgan Stanley	• UBS • Wells Fargo	A+
A2	• Goldman Sachs • UBS		• Bank of New York Mellon • JPMorgan	• State Street	• Barclays • Citigroup • Goldman Sachs	• Standard Chartered	A
A3	• Citigroup • HSBC	• Standard Chartered	SMFG • Bank of America • HSBC • ING	• ***Mizuho*** • Morgan Stanley • ***MUFG*** • UBS • Wells Fargo	SMFG • ***Mizuho*** • ***MUFG***		A-
Baa1	• Barclays • ING		• Barclays • Citigroup • Goldman Sachs	• Standard Chartered			BBB+
Baa2							BBB
Baa3							BBB-

*1 長期発行体格付（存在しない場合は、長期預金格付）（Moody's）、長期自国通貨建発行体格付（S&P）、長期発行体デフォルト格付（Fitch）

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.

65

本資料には、当社グループの財政状態および経営成績に関する当社グループおよびグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」、ならびに、環境、社会およびガバナンスにかかる当社グループのサステナビリティに関連する活動に関する記述（「サステナビリティに関する記述」）が含まれております。

多くの場合、これらの記述には、当社グループの将来に関する事項を表す「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績や結果を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績や結果は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」および「サステナビリティに関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績や結果に影響を与えうるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有する有価証券の時価の下落、不良債権残高および与信関係費用の増加、当社グループの国内外におけるビジネス戦略が奏功しないリスク、提携・出資・買収および買収後の経営統合が奏功しないリスク等です。こうしたリスクおよび不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」および「サステナビリティに関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」または「サステナビリティに関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。また、「サステナビリティに関する記述」における、当社グループのサステナビリティに関連する取組については、当社グループのリスク管理およびその他の投融資等の目的を推進しそれらに対応することを目指す、当社グループが独自に決定した方針と方法に基づき行われ、また個々の決定は各法域において適用される法規制に基づき、それに従って行われます。

当社グループの財政状態および経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。

為替レート（月末TTM）

	25/9末	26/3末	26/9末
1ドル	148.81円	159.90円	157.31円
1ユーロ	174.39円	183.44円	178.28円

▶ 本資料における計数、表記の定義

SMFG	三井住友フィナンシャルグループ（持株会社）
SMBC	三井住友銀行
SMBC信託	SMBC信託銀行
SMFL	三井住友ファイナンス＆リース
SMBC日興	SMBC日興証券
SMCC	三井住友カード
SMBCCF	SMBCコンシューマーファイナンス
SMDAM	三井住友DSアセットマネジメント
SMBCAC	SMBC Aviation Capital
SMICC	SMFG India Credit Company
主要現地法人	SMBCバンクインターナショナル、 SMBCバンクEU、三井住友銀行（中国）
連結	三井住友フィナンシャルグループ連結
経費（SMBC）	臨時処理分を除く
業務純益	一般貸倒引当金繰入前
親会社株主純利益	親会社株主に帰属する当期純利益
リテール事業部門（RT）	国内の個人向けビジネス
ホールセール事業部門（WS）	国内の法人向けビジネス
グローバル事業部門（GB）	海外ビジネス
市場事業部門（GM）	市場関連ビジネス

Copyright © 2026 Sumitomo Mitsui Financial Group.
All Rights Reserved.